

平成二十四年三月

特37

二木文庫

特38

中村石蘭亭文庫

目録

金沢市立玉川図書館

近世史料館

二 木 文 庫

中 村 石 蘭 亭 文 庫

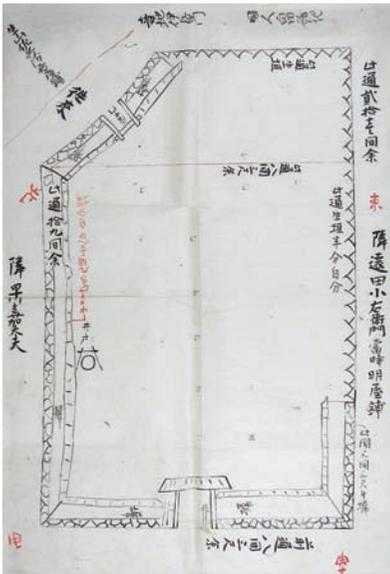
目 録



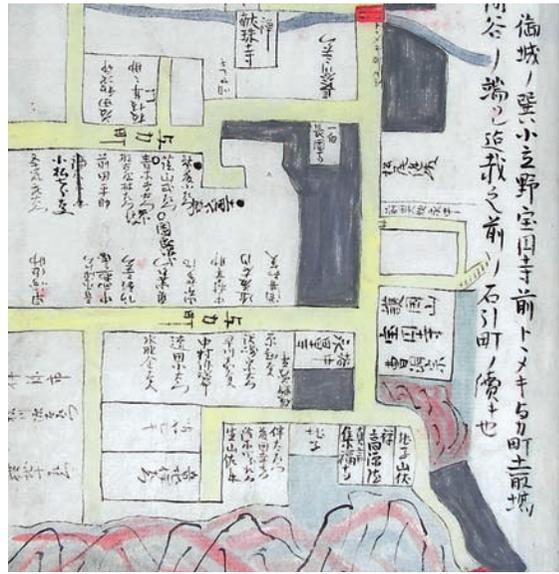
大津登米に付御印書等軸仕立文書 (37.2-12)



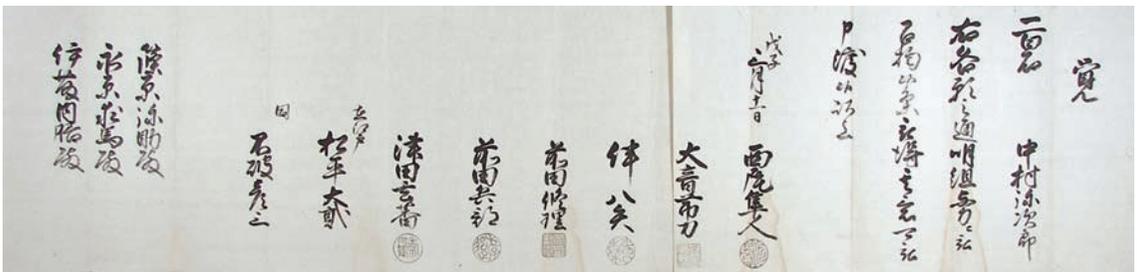
前田利常知行宛行状 (38.11-11)



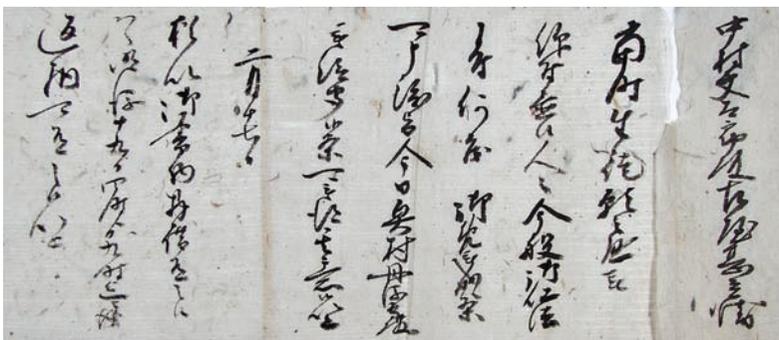
屋敷図綴 (38.25-3)



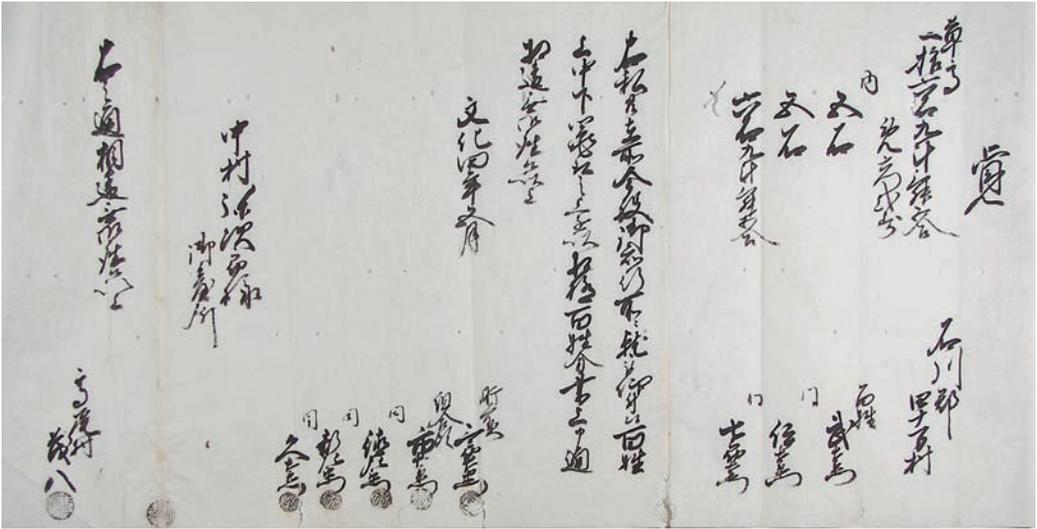
加陽武士町細見図 (38.53-2)



中村弥次郎明組与力召抱申渡状 (38.12-1)



御仕法につき生徒御免申渡書 (38.32-5)



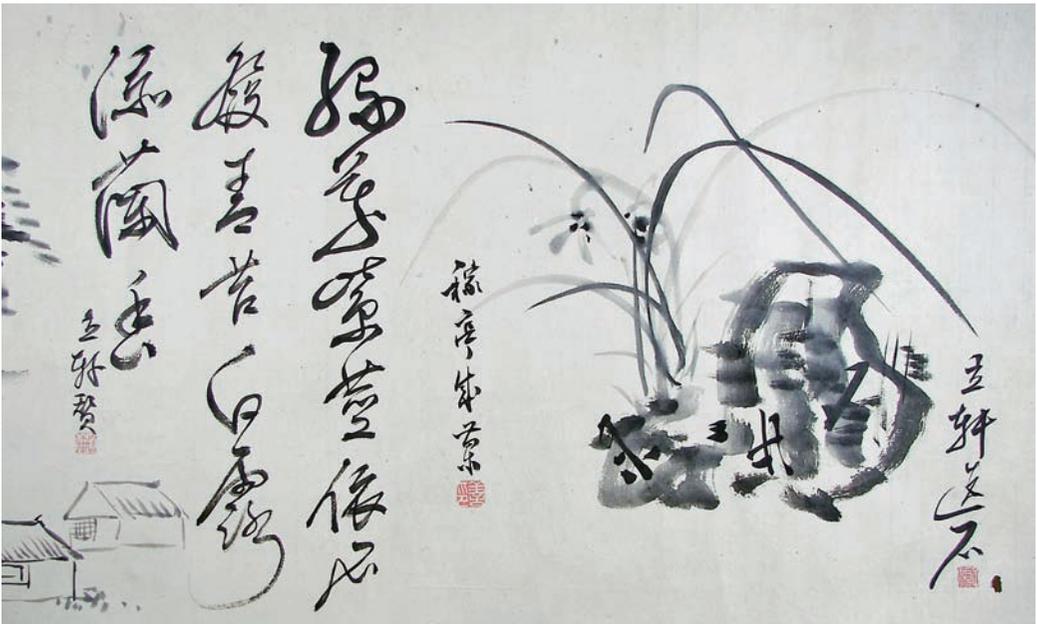
知行所につき高・百姓仕分け申上書 (38.22-2)



「起止録」(38.27-2) と
「中村養昌一代記」(38.27-1)



判印鑑等 (左から38.21-31・28・24)



書画酬和 (38.46-1)

序

この度、二木壮一氏および中村夏栄氏から史料を御寄贈いただき、それぞれ当館の三十七番目となる「二木文庫」、三十八番目となる「中村石蘭亭文庫」として整理し、保存することといたしました。なお「石蘭亭」の名は、中村家の居所名から取ったものです。

二木文庫は、旧宮腰町（現金沢市金石）で町役人を勤めた銭屋市郎右衛門家の文書です。宮腰町は、藩政時代城下町金沢の外濠として栄えた港町で、銭屋は後期宮腰町の町年寄などの町役人を勤めた有力町人であり、船主としても活躍していました。加賀藩の藩米を上方に運送した大津登米に関わる史料は、加賀藩初期の海運政策を知る上で大変貴重なものです。

中村石蘭亭文庫は、加賀藩の明組与力（知行高百石）で明倫堂助教を勤めた中村知左衛門（豫卿）を始めとした中村家の文書です。内容は、役儀を始め、中村家・学校・学芸に関わる史料など、広範囲にわたっておりませんが、豫卿が書き記した「起止録」は、天保九年から明治十七年までの四十六年間にわたる日記で、幕末から明治へと変わる激動の時代を生きた当時の生活の様子を記述した史料です。

二木家および中村家の方々が長年にわたり守ってこられたこれらの貴重な史料を、今後長く保存し、後世に伝えていくと共に、本目録が、多くの方々に利用・活用されることを念願するものです。

終わりに、貴重な史料を御寄贈いただいた二木家および中村家に対し、心からお礼を申し上げます。

平成二十四年三月

金沢市立玉川図書館

近世史料館

館長 森田 勝

凡 例

一、本目録は二本文庫及び中村石蘭亭文庫の二つにより構成される。二本文庫は宮腰町役人を勤めた錢屋市郎右衛門家の文書で、平成二十二年度に二木壮一氏から寄贈されたものである。中村石蘭亭文庫は加賀藩の明組与力で明倫堂助教を勤めた中村家の文書で、平成二十三年度に中村夏栄氏から寄贈されたものである。それぞれ本館の三十七番目及び三十八番目の特殊文庫となる。

一、目録記載は（分類）番号・（史料）標題・（作成）年月日・宛名・形態・墨付（冊子の場合）・点数・差出（作成者名）の順に記した。標題については原題のままのもの、補足したもの、新たに付したものがあがるが、それらについて各々注記はしていない。史料の作成年月日については、記載のない場合でも推定できるものについては（ ）を付して推定年を記した。冊子物の丁数は白紙部を除いた墨付部の丁数である。

一、二本文庫の分類は〔1 二木家〕〔2 御米裁許登米〕〔3 宮腰町〕〔4 御出行御仮屋絵図〕〔5 寺社・宗教〕〔6 学芸〕〔7 歴史・地理〕の七分類とした。中村石蘭亭文庫は〔I 役儀〕〔II 中村家〕〔III 学校等〕〔IV 学芸〕〔V 藩政〕の五分類とし、その下に小分類を施した。

一、史料の配列は分類毎に編年を基本とし、年代未詳の場合は干支のあるもの、月日のあるもの、年月日未詳のもの順に配し、年代未詳史料については大きく江戸期と明治期以降を区分し配列したが、明確に判別できないものもあり、特に江戸期・明治期などと表記していない。

一、標題等に身分上の呼称が出てくるが、これは過去の身分制を肯定する、あるいは差別を容認するものではない。歴史上の事実として我々の歴史の中に存在したものであり、歴史・時代を認識する上で隠したりすべきではない、との判断から史料にあるがままに表記した。

一、二本文庫目録の作成は宇佐美孝が担当し、編集及び解説は塩川隆文が担当した。中村石蘭亭文庫目録の作成、編集及び解説は小西昌志が担当した。両文庫の整理及び公開のための登録作業は本館職員全員で行った。

目次

二木文庫目録

1 二木家	1
2 御米裁許登米	1
3 宮腰町	2
4 御出行御仮屋絵図	2
5 寺社・宗教	3
6 学芸	4
7 歴史・地理	5
参考品	5
二木文庫解説	6

中村石蘭亭文庫目録

I 役儀	16
11 養昌以前／12 養昌／13 敬忠／ 14 豫卿／15 起請文前書	
II 家	21
21 由緒・家系・判印鑑／22 知行／ 23 遺書・相続・養子・縁組／24 儀礼／ 25 屋敷・住所／26 家計／ 27 日記・諸事留・雑録等／28 書状・書簡／ 29 事件・その他	
III 学校等	34
31 明倫堂・孝友堂／32 明倫堂と西校／ 33 鹿島郡小学校	
IV 学芸	37
41 学問・武芸／42 文学／43 宗教／ 44 漢学／45 漢詩／46 書画	
V 藩政	43
51 藩主家／52 藩政／53 記録	
中村石蘭亭文庫解説	45

番号 標 題 年月日 型態 墨付点数

1 二木家

- | | | | | |
|----|----------------------------------|-------------|---------|---|
| 1 | 形見之義に付書状
(鶴屋)行甫↓錢屋助左衛門 | 寛文12年閏6月29日 | 切紙 | 1 |
| 2 | 大宝覚 二木家覚 | 天保年調 | 長帳8丁 | 1 |
| 3 | 天正三年以来二木家覚書 | 年未詳 | 続紙 | 1 |
| 4 | 大谷家之事并二木家之事
二木助左衛門 | 年未詳 | 続紙 | 1 |
| 5 | 二木家系図 二木佐兵衛 | 年未詳 | 切続紙 | 1 |
| 6 | 二木家系図 二木利右衛門 | 年未詳 | 続紙 | 1 |
| 7 | 二木助左衛門義覚書
二木良顕 | 年未詳 | 切紙 | 1 |
| 8 | 二木家万覚書等綴 | 年未詳 | こより綴28丁 | 1 |
| 9 | 二木家所蔵御印物等目録
良顕写 | 年未詳 | 野紙綴2丁 | 1 |
| 10 | 二木家系図 二木錢屋 | 年未詳 | 卷子 | 1 |
| 11 | 錢屋市郎右衛門家御印物返還之旨申達書
御家祿方↓加州郡治局 | 明治3年5月29日 | 続紙(繼立) | 1 |
| 12 | 法事調理等之帳
十世覚信二木市平編集 | 明治4年〜37年 | 袋綴39丁 | 1 |
| 13 | 二木家葬儀・法要覚
三代目二木清次郎 | 大正9年〜昭和27年 | 野紙綴90丁 | 1 |
| 14 | 出征餞別・葬儀覚
二木氏 | 昭和12年〜28年 | 野紙綴28丁 | 1 |

2 御米裁許登米

- | | | | | |
|---|--|--|------|---|
| 1 | 中納言様御分新川米大津御蔵入請取手形之写
(八三八石余・一二九四石余) | | 袋綴4丁 | 1 |
| 2 | 小谷伝左衛門↓錢屋助左衛門 明暦元年8月21日
小谷伝左衛門・比良左内・堀弥衛門↓ 明暦元年8月21日 | | | |
| 3 | 御両殿様御米請取蔵入之帳 承応4年4月吉日 袋綴39丁
大津御登米裁許勤向に付伺書 承応4年3月21日 続紙 | | | |
| 4 | 錢屋助左衛門↓菊池大学・伊藤内膳 十世助次追記
為登米目録(前欠) 承応4年7月23日 続紙 | | | |
| 5 | 敦賀長見世屋茂左衛門↓錢屋助左衛門
加州越中御古米敦賀着大津登目録(後欠) 承応4年7月28日 続紙 | | | |
| 6 | 庄田太郎左衛門↓欠
大津為登米目録(九七四九石) 承応4年8月3日 続紙 | | | |
| 7 | 敦賀御蔵宿道川九左衛門・三宅彦右衛門・庄田茂右衛門・俵屋彦兵衛・鍵屋太郎兵衛・山岡彦兵衛・破隼屋六兵衛・清須屋吉兵衛・網屋伝兵衛・河瀬四郎右衛門・山下七郎兵衛・木綿屋藤兵衛・布屋吉兵衛・長見世屋茂左衛門↓錢屋助左衛門
越中新川御古米新道野着大津登御目録 (二二五石) 承応4年8月6日 一紙 | | | |
| 8 | 新道野茶屋西村孫兵衛↓錢屋助左衛門
大津等為登米目録(前後欠)(五四五七石余) 承応4年8月7日 続紙 | | | |
| | 橋本彦四郎・橋本彦衛門・大黒屋宗左衛門・大黒屋弥兵衛↓ | | | |

2 御米裁許登米 3 宮腰町 4 御出行御仮屋絵図

5 寺社・宗教

番号 標 題 年月日 型態 墨付 点数

3 宮腰町

9 宮腰浦等出・着舟之義可申越達書(八五〇五石余)切統紙 1 1 巡見上使御尋之趣答書控 延宝9年6月13日 統紙

5月14日

宮腰錢屋助左衛門↓茨木伝右衛門

10 御米裁許錢屋助左衛門大津着米等に付申上書 折紙 1 1 2 佐那武明神社より宮腰大道迄之道筋幅に付申渡書

伊藤内膳・菊池大学↓錢や助左衛門

貞享3年11月25日 一紙

7月5日

村田弥三郎↓寺中村神主中

11 加賀守様御分三ヶ浦より積登御古米大津御蔵 袋綴4丁 1 1 3 馬借中御役用銀借用証文(封入) 天保7年正月 統紙

錢や助左衛門↓(伊藤)内膳・(菊池)大学

馬借次兵衛・十兵衛・八郎右衛門・安右衛門・仁兵衛・弥

入御帳 明暦元年5月

軸装

吉・次郎助・甚兵衛・作兵衛・市兵衛・安兵衛・与兵衛・勘

12 大津登米に付御印書等軸仕立文書 1 1 4 年頭御礼願聞届書(封入) 天保9年12月19日 切統紙

・三ヶ国古米大津登済に付御印書 明暦2年6月4日

七・伝蔵・市左衛門・四郎兵衛・伊兵衛・次右衛門↓伝馬肝

・奥村因幡・津田玄蕃・前田对馬↓錢屋助左衛門

・登米済御印遣に付達書 7月29日

煎他三郎 (奥書)馬借人七郎兵衛・善六

算用場↓錢屋助左衛門

湯原平馬↓錢屋市郎左衛門

・大津登米に付指図達書 7月9日 5 町年寄役等御免願書 天保10年2月 切紙

伊藤内膳・菊池大学↓錢屋助左衛門

町年寄市郎右衛門↓宮腰町御奉行所

・敦賀登り米升廻に付申渡書 4月5日 6 宮腰町横目肝煎市郎右衛門義御扶持頂戴方願書 折紙

富田内蔵允・小西次太夫・川勝三右衛門・駒井主水↓宮腰錢

(封入) 申12月

や助左衛門

↓御用番

13 宮腰より敦賀為登古米に付申渡書(後欠) 切紙 1

卯月22日

4 御出行御仮屋絵図

14 中納言様分升廻蔵入之覚 年未詳 袋綴22丁 1 1 基五郎様等宮腰浜御出之節御仮屋絵図 一舗

富田内蔵允・川勝三右衛門・小西次太夫・駒井主水↓欠

袋綴2丁

天保12年4月26日

15 海津・大浦出米之覚(錯簡) 年未詳 袋綴2丁 1 1 2 基五郎様等宮腰浜御出之節御仮屋絵図 一舗

寛文十二年より与右衛門貸銀指引算用書

切統紙

天保15年3月24日

延宝7年12月29日

3	御出之節順路并御仮屋ヶ所図	弘化2年3月	一舖	1			
4	栄操院様等宮腰浜御出之節御仮屋絵図	弘化2年4月2日	一舖	1			
5	栄操院様等宮腰浜御出之節御仮屋絵図	嘉永3年3月24日	一舖	1			
6	礼姫様等宮腰浜御出之節御仮屋絵図	文久2年5月13日	一舖	1			
7	若御前様等宮腰浜御出之節御仮屋絵図	文久3年3月29日	一舖	2			
8	御仮屋絵図	年未詳	一舖	1			
9	礼姫様等粟崎御旅屋御出之節御天幕之図	明治3年5月22日	一舖	1			
5 寺社・宗教							
(佐那武神社)							
1	前田利常判物写(社領寄進状)	寛永15年12月11日	切紙	1			
2	佐那武明神社御能濫觴申上書	寛政8年4月	罫紙	1			
3	佐那武大明神御輿再宮御棟札(封入)	河崎・河崎↓宮腰町年寄中山主計 年未詳	続紙	1			
4	佐那武大明神由緒覚	明治	切紙	1			
5	二木市平大野湊神社氏子札	明治6年2月	木札	1			
(重胆寺)							
6	竹園抄借用之義に付書状	孟春日	一紙	1			
7	宮腰重胆寺什物鉦鼓之覚	年未詳	切紙	1			
8	御門徒年中御給仕御作法書	延宝7年正月	袋綴13丁	1			
9	七夕立花之義案内書状	6月5日	切紙	1			
10	専光寺愚光院御逝去之節過分御吊に付札状	7月18日	一紙	1			
11	御台所不如意に付志納金受納状	戌8月11日	折紙	1			
12	御取替之志納金受納書	閏8月7日	折紙	1			
13	金沢末寺七昼夜御法事案内状(封入)	11月	折紙	2			
14	年中真宗御給仕御作法書	年未詳	袋綴15丁	1			
15	蓮如上人童形布袋麻呂真影	年未詳	一枚(木版)	1			
16	ぜゝのほん(正信偈略本)	年未詳	書冊(木版)	1			

番号	標題	年月日	形態	付点数	墨点
(大樹寺・回向院)					
17	二木助左衛門孫又十郎大樹寺一誉弟子入之義に付書状				
	大樹寺一誉↓二木助左衛門尉	9月25日	折紙	1	
18	弟子入承諾之二木又十郎死去之旨書状				
	大樹寺一誉↓二木助左衛門	12月18日	折紙	1	
19	改年御慶之義并万潤和尚往生之義に付書状				
	江戸回向院隱居遺誉↓宮腰錢屋助左衛門	元禄3年正月9日	折紙	2	
20	助左衛門様御往生につき悔状				
	万潤↓錢屋源左衛門	12月4日	折紙	1	
21	万潤和尚来歴				
	助左衛門病死に付大樹寺弟子衆之義等に付書状	年未詳	切紙	1	
22	助左衛門病死に付大樹寺弟子衆之義等に付書状	正月1日	折紙	1	
23	三州大樹寺珍宝御宗門御誕				
	江戸回向院隱居遺誉↓宮腰錢屋源左衛門		続紙	1	
24	徳川家菩提寺成道山大樹寺由来	年未詳	一紙	1	
(その他)					
25	松木神主年賀詞并勸化取持依頼状	正月元日	切続紙	1	
	松木神主栄彦↓錢屋市郎兵衛・酒屋平左衛門・広瀬屋武右衛門・錢屋弥三兵衛・木田屋豊右衛門				
26	神名書	年未詳	切紙	1	
27	増補八部太祓	安政2年11月	折本(木版)	1	
	皇都経師大和屋勘兵衛・三河屋利兵衛・経師屋伊三郎版				
28	東照神君御開運御守本尊験証摺既				
	二木良顕写	年未詳	袋綴12丁	1	
29	熊野護符	年未詳	切紙(木版)	1	
30	北野天満宮之由来記	年未詳	袋綴31丁	1	
	二木錢屋録				
31	北野神社境内絵図(タトウ入)	明治28年3月	一舗(銅版)	1	
	北野神社蔵版、東涛舍霜鳥巴凌写、皆川華岳彫刻、東京青山豊太郎発行				
32	菅原神社実伝録	明治	罫紙綴10丁	1	
33	十八願文等経文貼込	年未詳	続紙	1	
	釈覚源書				
34	西国三拾三番御詠歌(後欠)	年未詳	小本(木版)	1	
6 学芸					
1	二木久蔵自筆七以呂波	慶長14年2月19日	袋綴7	1	
	(二木)久蔵				
2	日野資枝和歌短冊(封入)	年未詳	短冊	1	
	日野資枝				
3	日野資愛和歌短冊	年未詳	短冊	1	
	日野資愛				
4	堀越左源次和歌短冊	年未詳	短冊	1	
	堀越左源次				
5	勃々庵一枚摺物(歳旦)	年未詳	切紙(木版)	1	
	勃々庵				
6	竹輶和歌短冊	年未詳	短冊	3	
	符谷竹輶				

- 7 松雲公題粟崎亭子之詩 年未詳 一紙 1
- 8 善福寺毛耳公亮漢詩 年未詳 切紙 1
- 毛耳公亮
- 9 四時季寄(後欠) 寛政7年4月中旬 折本 1
- 越後巨鳩・長門泰之・阿波蘭室校 江戸須原茂兵衛・京都野田藤八・野田治兵衛梓行
- 10 季寄(後欠) 年未詳 折本(後半木版) 1
- 良重・良顕
- 11 西庵和歌短冊 年未詳 短冊 1
- 西庵
- 12 葛雨一枚摺物(歳旦) 辰の春 一枚 1
- 蕉語亭葛雨
- 13 夕涼之句 年未詳 軸装(紙本墨書) 1
- (竹内)野口
- 14 牡丹図 年未詳 軸装(紙本彩色) 1
- 九華
- 15 老松図 年未詳 軸装(紙本彩色) 1
- 九華
- 16 水辺鷺図 年未詳 軸装(紙本彩色) 1
- 垣内雲嶺 不竹斎、錦嶺とも、弘化二年飛驒の生、大正八年没
- 17 宋晁無咎老子騎牛図複製 年未詳 軸装(写真版) 1
- 晁無咎
- 18 白山新百首 明治9年2月1日出版 袋綴(木版) 1
- 狩谷竹輻出詠、真弓園藏版、板主奥村栄滋・横山政和・同隆淑
- 19 白山比咩神社献詠 明治17・18・19年 書冊(三冊合綴) 1
- 白山比咩神社社務所
- 20 葛雨舎和歌 明治25年睦月 切続紙 1
- 葛雨舎
- 7 歴史・地理
- 1 道中独案内(タトウ入) 文化15年2月再版 一舗(木版) 1
- 大坂吉文字屋市左衛門・江戸須原屋平助・名古屋永楽屋東四郎・京都菊屋喜兵衛版
- 2 大坂図 浪花書林石川屋和助版 天保13年6月 一舗(木版彩色) 1
- 3 水野越前守御改革之義に付申渡之覚 天保14年閏9月15日 罌紙・切続紙 2
- 4 前田家御家譜曆 年未詳 一紙 1
- 5 御国公家譜 年未詳 続紙 1
- 6 奥村永福系譜 年未詳 一紙 1
- 7 劔梅鉢紋画 年未詳 切紙 1
- 8 粟生より津幡高松迄之絵図 年未詳 一舗(彩色) 1
- 9 元金沢藩札、元大聖寺藩札新貨比較通解并新札受取書 明治5・6年 袋綴6丁 1
- 石川泉庁、金石副戸長二木市平・戸長酒井平二郎↓石川泉出納課交換掛御中
- 参考品
- 錢貨(寛永通宝・絵銭「南無阿弥陀仏」・「南無妙法蓮華経」・吉田駒曳銭・福神類) 年未詳 銅銭 5

二木文庫解説

(二木文庫概要)

二木文庫は総点数
一一九点からなる。

このうち五点は参考
品(銭貨)であり、こ
れを除くと実質一
四点となる。

史料は七つの項目
に分類し、必要に応
じ細項目を付したも
のがある。点数的に

は「五 寺社・宗教」が三六点と最も多いが、「二 御米裁許
登米」の一六点が近世初期大津廻米の実態を知ることので
きる貴重な史料群であるため、特殊文庫として独立させる
こととした。その他、「四 御出行御飯屋絵図」や「五 寺
社・宗教」などに特色のあるまとまりが見られる。

(二木家)

「天正三年以来二木家覚書」(三七・一―三)等によると、
二木家初代の久蔵は永祿四年(一五六二)に越前で生まれ、
大谷吉継に仕え各地を転戦した後、加賀宮腰に移住し、町人
となり銭店を営んだことから、名を銭屋助左衛門と改めた。
二木家の歴代を次に列記する。

項目	集計
1 二木家	14
2 御米裁許登米	16
3 宮腰町	6
4 御出行御飯屋絵図	10
5 寺社・宗教	36
6 学芸	22
7 歴史・地理	10
参考品	5
総計	119

十一世	十世	九世	八世	七世	六世	五世	四世	三世	二世	一世	
勘太郎	市郎右衛門	市郎右衛門	市郎右衛門	源右衛門	市郎右衛門	助左衛門	源左衛門	市郎右衛門	源左衛門	久蔵	
後市平 実名良 法名覚念、嘉永六年生、明治十四年相続、湊町等十八町衛生委員、明治三十七年小樽にて死亡五十二才	幼名他三郎、後助八郎・市平・良顕、隠居助次、字三頂 文化二年生、天保十四年相続、伝馬肝煎・冬瓜町肝煎・地子町肝煎・本町肝煎等、安政六年海禪寺町より鉄砲町に移、明治二十七年死亡七十六才	並、天保八年町年寄、天保十四年死亡七十六才	(もと源六)、童名源十郎、実名良重、号期月、法名覚源 寛政四年相続、醤油・味噌・塩・豆腐・油商売、寛政四年冬瓜町肝煎、後加役批肝煎、馬肝煎、寛政十二年本町肝煎・横目肝煎、後町年寄	法名覚舜 宝暦十三年材木仲買肝煎	童名源六郎、法名覚周、元祿八年生、本町肝煎、御塩問屋、宝暦十三年死亡六十九才	三十才	吉十郎、名乗駕心、法名覚由 慶安二年生、宝永元年死亡五十四才	共中山伊左衛門売、元祿二年味噌屋町利右衛門家渡	童名宮内、助左衛門、名乗吉重、法名覚応 寛永元年生、明暦元年大津御米弘才許、元祿二年死亡六十六才 本町家蔵屋敷并横町家	法名春応 文祿二年生、寛永十六年死亡四十七才	後助左衛門 法名覚春 永祿四年生、寛永七年死亡七十才

(「二木家系図」より作成)

六代目の市郎右衛門以降は本町肝煎等の町役人を歴任し、特に九代目の市郎右衛門は宮腰の町年寄を務めるなど、町政の中で重きをなした。なお、宮腰の町年寄を歴任した中山家とも職務等を通じた付き合いがあったようで、中山家文書の中に「二木自分留」(六四〇—一、二木助左衛門著)「年々寺中御能番組」(九三〇—一、錢屋市郎右衛門著)等、二木家の人びとが作成した史料が含まれている。

(大津登米)

二木文庫の中には、承応四年(一六五五)の大津登米(おおつのぼりま)い、為登米(のぼせまい)ともいう)に関する史料が含まれている。大津登米とは、加賀藩が年貢米を販売するため大津へ米を回送することを言う。

この時に採られた一般的なルートは、領内から一旦宮腰に集積した後、敦賀を経て、琵琶湖経由で大津へ運ぶというものであった。この大津登米は元和二年(二六一六)に制度化されるが、西廻り航路を用いた大坂登米が本格化する一七世紀後半以降は衰退したと言われている。承応四年の大津登米はその最末期の事例であり、大津登米を試験的に行いながら安定的な販売ルートを模索していた時期のものである。この事例自体は、これまで中山家文書の「二木自分留」により知られていたが、その原史料が一括して見つかったことにより、藩の御用を請け負った錢屋(二木)助左衛門が敦賀の蔵宿などと協力しながら藩米を大津御蔵に納めるまでの過程を具体的に知ることができる。巻末に主な史料の翻刻等を付したので参照されたい。なお、二木文庫の大津登米関係史料の一部が当館所蔵の加越能文庫「河内守様・内匠様御名御判物等奉頂戴覚書等」(二六・四一—三四)及び「町人由緒帳」三(二六・六二—一〇八)に収録されている。

(御飯屋御用)

二木文庫の中には、藩主家が宮腰浜に「御出」になった際に設けた「御飯屋」に関する史料が一〇点残されている。例えば、嘉永三年(一八五〇)三月二四日に栄操院(前田斉広側室)と豊之丞(前田利行、前田斉泰五男、大聖寺藩一三代藩主)が宮腰浜へ「御出」になった時は、七ツ屋往還から粟ヶ崎橋を渡って粟ヶ崎の御旅屋に入り、それから宮腰浜に建てられた「御飯屋」に入り、地蔵道から宮腰往還を通って金沢に戻ったと記されている(栄操院様等宮腰浜御出之節御飯屋絵図、三七・四一五、口絵参照)。わずか一日の出行ながら、御飯屋を建てる費用や警護する人びとの宿舎の手配等、その負担は少なくなかったことが窺える。

(二木家の人びとの信仰)

二木家の宗旨は浄土真宗であった。「法事調理等之帳」(三七・一一—一二)によると、初代助左衛門は東本願寺門主の教如から「覚春」の法名と「御剃刀」を給わり、二代助左衛門は宮腰廿八日講の取持として鶴屋与兵衛とともに常如上人御書を拝領したという。「年中真宗御給仕作法書」(三七・五一—一四)には真宗門徒としての勤めが年中行事の形式で記されている。また、二木家は佐那武社(大野湊神社)の氏子でかつ同社神主の河崎家と姻戚関係にもあり、同社の文書の写しが残されている。その他、二木助左衛門の孫、又十郎が弟子入りした大樹寺(徳川家菩提寺、浄土宗)住職からの書状、近世前期に破却された重胆寺住職からの書状等、興味深い史料が見られる。

二木文庫史料選(登米関係)

- 1 中納言様御分新川米大津御蔵入請取手形之写
(八三八石余・一二九四石余) 明暦元・八・二二
- 2 御両殿様御米請取蔵入之帳 承応四・四
- 3 大津御登米裁許動向に付伺書 承応四・三・二二
- 4 為登米目録(前欠) 承応四・七・二三
- 5 加州越中御古米敦賀着大津登米目録(後欠)六二四
石) 承応四・七・二八
- 6 大津為登米目録(九七四九石) 承応四・八・三
- 7 越中新川御古米新道野着大津登米目録(二二五
石) 承応四・八・六
- 8 大津等為登米目録(前後欠)五四五七石余) 承応
四・八・七
- 9 宮腰浦等出・着船之義可申越達書(八五〇五石余
承応四・五・一四
- 10 御米裁許錢屋助左衛門大津着米等に付申上書
承応四・七・五
- 11 加賀守様御分三ヶ浦より積登御古米大津御蔵入
御帳 明暦元・五
- 12 大津登米に付御印書等軸仕立文書
 - ①三ヶ国古米大津登済に付御印書 明暦二・六・四
 - ②登米済御印遣に付達書 明暦二・七・二九
 - ③大津登米に付指図達書 承応四・七・九
 - ④敦賀登り米廻廻に付申渡書 承応四・四・五
- 13 宮腰より敦賀為登古米に付申渡書(後欠) 承応
四・四・二三
- 14 中納言様分升廻蔵入之覚 明暦元カ
海津・大浦出米之覚(籍簡) 年未詳

1 中納言様御分新川米大津御蔵入請取手形之写
(八三八石余・一二九四石余) 明暦元・八・二二

(表紙)

中納言様御分新川米大津御蔵入小合傳左衛門殿・
菱や源次請取手形之写

明暦元年八月

承応式年分越中新川古米明暦元年大津着御蔵入之事

俵成高千三百七拾四石八升六合

一、千貳百七拾八石貳斗三升五合八加州斗升を以壹石入

俵成高拾七石五斗

一、拾五石九斗壹升者

右同断

(但今年米撰出シ)

俵成高千三百九拾壹石五斗八升六合同

八百九拾七石八式重俵
四百九拾四石五斗八式重俵

合千貳百九拾四石壹斗四升五合

右 中納言様御分請取御蔵へ入置申所如件

明暦元年八月廿一日 小谷傳左衛門

錢屋

助左衛門殿

承応式年越中新川古米明暦元年二大津着蔵入仕事

俵成高八百九拾五石

一、八百參拾壹石八斗八升三合 加州斗升ヲ以壹石入

俵成高五石

一、四石六斗六升

右同断(但シ)

(中略)

右是迄三拾六艘宮腰出済申候御米合五千六百四拾貳

俵成高千九百石

六百四拾七石五斗八式重俵
内貳百五拾貳石五斗八二重俵

15 海津・大浦出米之覚(籍簡) 年未詳

合八百參拾八石五斗四升三合

(半丁欠)

御印有之付如此候、則俵数升廻シ、以下見届申所如件

未八月廿一日

小合傳左衛門

比良左内

堀弥右衛門

2 御両殿様御米請取蔵入之帳 承応四・四

(表紙)

乙 承応四年

御両殿様

御米請取蔵入之帳

(付箋)「御登米石高也」

未 四月吉日

卯月十三日辰ノ刻着船

船頭能州風至村

一、百七拾石ハ 宮腰出

五郎兵衛

本廻シ壹石壹合也

敦賀宿川舟

敦賀廻シ九斗九升貳合也、但本廻シ壹石壹合ニ付九

合かん

かん

かん米、壹石五斗三升、此かん米船頭方より請取不申候

内六拾八石ハ三宅彦右衛門蔵入

同三拾四石ハ庄司太郎左衛門蔵入

同三拾四石ハ長ミセや茂左衛門蔵入

同三拾四石ハ木綿や藤兵へ蔵入

(中略)

石也

外式百四拾石

船頭加州日角村六右衛門舟二積出ル分、明暦元年四月十四日夜能州大崎柴垣ノ間中濱ニテ破損ニ付テ、出船御奉行衆よりノ通帳ニ付札御座候ニ付、指除申候

能州分

五月十二日未ノ刻着 船頭能州富來町
一、百六拾三石ハちり濱出 傳兵へ舟
つる賀宿もめんや藤兵へ

本廻九斗九升四合也
敦賀廻九斗九升式合廻、但本廻壹石ニ付式合かん、右之か
ん米ノ三斗式升六合也、此米船頭よりうけとり申候
○右百六十三石三宅彦右衛門蔵入

(付札)「岩瀬」

越中より御米着船分

五月十三日ノ巳ノ刻着舟 小津船のとや
一、九百五拾石者 岩瀬出 船頭新左衛門
内四百七拾五石者式重儀也 敦賀宿川口善兵へ
本廻シ五斗宛也
敦賀廻シ本廻シ也

○右之内式百石者 綿や五郎右衛門蔵入

○同 式百石ハ 富森久左衛門蔵入
○同 四百石ハ 海津や左次右衛門蔵入

○同百五拾石ハ 山下七郎兵へ蔵入
二重儀 内半分ハ二重儀

(中略)
御米合式千六百六拾式石也、御帳ニ扣申候

(付札)「伏木」

越中伏木より着船

五月十三日未ノ刻着舟 越中伏木
一、百五拾石ハ 伏木出 船頭惣兵へ
本廻シ壹石也 敦賀宿
敦賀廻シ本廻シ也 富森久左衛門

○右百五拾石 道川九左衛門蔵入
(中略)

御米合三千九百四拾四石也
外式拾八石

船頭能州七尾市郎右衛門舟伏木浦より積出ル米高百九拾石ノ内、明暦元年四月廿六日ノ夜打捨申ニ付テ、近藤次右衛門殿、富田次太夫殿御改之紙面ヲ以指除申候
四ヶ所
合壹万式千四百拾壹石也

裁許 錢屋助左衛門

3 大津御登米裁許動向に付伺書 承応四・三・二二

(表紙)

大津御登米才許被為仰付候付勤方 錢屋 助左衛門
菊池様伊藤様へ伺書上申候処、御附札兩 (印)
御印ニ而被為仰下候、承応四未年三月

乍恐申上候

一、敦賀ニ而船より御米請取様何と可仕哉之御事
(付札)「宮腰ニ而廻シ其繼目ヲおくりニ記可遣候、猶敦賀又廻シ請取切手ニ其繼目ヲ記可越事」
一、敦賀より大津迄御米さいれう人之儀被為 仰付

可被下候御事

(付札)「破損」遣者さいりやう以下被遣間敷とのため
二候、町人共手廻シ能候故被遣事ニ候間、可得其意候」

一、敦賀より道中駄賃之直段一日之内ニも度々高下御座候様ニ承申候、加様之儀如何はからいかたく奉存候御事

(付札)「当地ニ而指図難成候、加様之義才覚次第之物
二候間、随分致才覚、少も安キ様ニ可仕候、其段かんやうニ候」

一、敦賀より海津迄之駄賃米并海津より大津迄運賃米、同舟より御蔵迄濱上賃米之儀如何可仕哉之御事

(付札)「其御米之内ニ而払可申候、運賃駄賃才覚次第ニ安キ物ニ而候間、随分才覚仕安キ様ニ可致候」

一、山中・しんど野・海津・大浦・塩津ニ而御米宿被為 仰付可被下之御事

(付札)「蔵宿之事、跡々の蔵宿ニ少もかまいなく聞立、儲成宿ニ預ケ可申候、火用心已下可然所ヲ見立尤ニ候」

一、大津ニテ御奉行衆へ御米渡様之御事
(付札)「大津ニ而御米廻し候而相渡可申候、其通切手ヲ取可申候」

一、御横目衆被為 仰付可被下之御事
(付札)「御横目ハ不被遣候」
一、右之御米上着仕相済申迄万事御意ヲうか、い申儀何方様へ可申上哉之御事

(付札)「用之義候者、此方へ可申越候」

一、自然万二も不慮之火そん水そん御座候者、以飛脚御注進可申上候御事

(付札)早速注進可仕候、若敦賀・海津二而破損有之候者、成次第手間料渡シ取上可申候、ぬれ米分当座払二可仕候、残り米ハのほ七可申候)

右之通御米之儀万事私共無案内ニ御座候間、申上候、様子共委御一書被為成被 仰付可被下候、以上

承応四年 三月廿一日 助左衛門判

菊池大学様 伊藤内膳様

右書自筆ノ内損壞分 扣ヲ以書添ヘル(印) 十世助次(花押)

右御付札九通之両御印者、菊池様・伊藤様之由伝承仕候、扣を以損壞之分書添候也

4 為登米目録(前欠) 承応四・七・二三

(表紙)

敦賀 敦賀 長見世屋 茂左衛門

(後略)

5 加州越中御古米敦賀着大津登目録(後欠)(六二四)

承応四・七・二八

(表紙)

敦賀着山中新道野兩所江上ケ大津登セ 庄司太郎左衛門

加州越中御古米敦賀着大津登御目録

高六百式拾四石 蔵入仕候

内

一、九拾六石五斗

其儀引ニテ 新道野へ上又

一、四百七拾三石八斗四升

其儀引ニテ 山中へ上又

式口ノ五百七拾石三斗四升

兩所江指登又

残而五拾三石六斗六升 敦賀小弘二仕候 升詰五拾七石四斗壹升六合式勺 敦賀升二延テ石七升廻

此弘方

一、八斗八升

一、壹石三斗九升七合五勺

一、壹斗七升五合

一、四石式斗三升七合五勺

一、壹石

一、四石七斗壹升

一、三石五斗七升五合

一、式拾式石四斗式升三合八勺

一、式石式斗八升壹合三升 右御登米之内三百式拾石三斗四升賦賣 石二付七拾宛山中へ

一、拾九石九斗六升壹合九勺

右御登米之内七拾八石五斗之賦賣 石二付六拾宛山中へ

一、壹斗壹升四合

一、壹斗壹升四合

一、三石三斗三升九合八勺

一、式斗式升九合八勺

一、七升四合八勺

一、式升八合五勺 海津屋佐次右衛門へ渡ス 四口ノ三石六斗七升式合九勺 引替申候

内請取口

一、四斗六升式合

河瀬四郎右衛門より

一、三斗四升九合四勺

依屋彦兵衛より

一、壹斗九升式合八勺

かぎ屋太郎兵衛より

一、三斗七升式合

川口善兵衛より

一、式斗五升八合

きよすや吉兵へより

一、七升壹合壹勺

石川九左衛門より

一、式斗三升九合六勺

布屋吉兵衛より

一、四斗壹勺五合

山岡彦兵衛より

一、七升八合式勺

長見せ屋茂左衛門より

一、四斗五升四合七勺

山下七郎兵衛より

一、三斗八升七合三升

わたや五郎右衛門より

一、式斗壹升四合

富森久左衛門より

一、七合壹勺

あみや傳兵へより

一、四升八合式勺

庄司茂右衛門より

一、壹斗式升三合三勺

きふや六兵衛より

右之御米少茂不殘山中新道野兩所へ指為登御皆済申上之儀仍如件

承応四年

未七月廿八日

庄司太郎左衛門勝茂(花押)

(印)

6 大津為登米目録(九七四九五) 承応四・八・三

(表紙)

御米九千七百四拾九石 敦賀御蔵宿 (印)
道川九左衛門等
敦賀着山中・新道野兩所上ケ大津御登七 拾四名

(後略)

7 越中新川御古米新道野着大津登御目録(二二五)

石 承応四・八・六
(表紙)

御古米貳百拾五石 新道野茶屋
敦賀着 西村孫兵衛
新道野着塩津上ケ大津登七

越中新川御古米新道野着大津登御目録

高貳百拾五石者 新道野蔵入

内

貳百七石三斗七升貳合 塩津江上〔破損〕

残七石六斗貳升八合 新道野小私二写

此升詰拾石壹斗壹升四合七勺貳才 升〔破損〕二付新道〔破損〕
升〔破損〕六斗六升三合廻

此私方

一、九石貳升四合

一、六斗壹升四合八勺八才

一、四斗七升五合八勺四才

小私八拾石壹斗壹升四合七勺貳才

右之御米少も不残塩津へ指上遣出入無御座御皆済申
上所如件

承応四年 新道野茶屋
未ノ八月六日 西村孫兵衛(印・花押)

錢屋助左衛門殿

8 大津等為登米目録(前後欠)(五四五七石余) 承応

四・八・七
(表紙)

御米五千四百五拾七石壹斗壹升三合 橋本彦四郎等
敦賀着 海津・大浦江上ケ大津為登

(後略)

9 宮腰浦等出・着船之義可申越達書(八五〇五石余)

承応四・五・一四

尚々駄賃之義何二てもやすく參着仕様ニ可被精出候、以上
当月十日書中同十三日ニ到来披見申候

一、宮腰出之御米不残着舟之由珍重候、此中順風無之
故、舟とたへ申付、駄賃四升宛ニ出し被申由、一段
二候

一、越中能州廻り舟未壹艘も着船不仕由被申越候、順
風次第近々着舟可仕候

一、大津ニて升廻斗升之事、御算用場より參候斗升ニ
て廻し可被申旨、大津へ被申遣候由、尤二候、御算
用場より登申上ハ此方より重而為登申二不及事候
間、其升を以升廻可被相極候

一、宮腰浦積出帳面并伏木浦より積出帳面以上式冊
遣之候間、此帳面を以積荷杯之面可被致吟味候、右
帳面之内破損舟も有之候間、能可被致吟味候、則破
損之所ニ付札いたし遣し被申候

一、岩瀬浦帳面・能州浦帳面、此分ハ跡より可遣事
右何も可然様ニ才許尤候、相替事有之候ハ重而可
被申越候、恐々謹言

伊藤内膳

五月十四日 (花押)

菊池大学

(花押)

錢や

助左衛門殿

10 御米裁許錢屋助左衛門大津着米等に付申上書

承応四・七・五

(表書)

御米裁許
判印鑑 錢屋助左衛門(印・花押)
吉重

錢屋

助左衛門

大津へ罷越居候節、伊藤内膳様・菊池大学様へ未七
月五日助左衛門より紙面上ケ申候処、同月九日御
指図之趣御返書被為下、此分者 御印物等壹幅ニ
認相成申候、依而右五日ニ上ケ申候扣之分二候也
十代錢屋

市郎右衛門(印)

改名 良頭

助 市 平 次

乍恐飛脚を以一筆申上候

一、敦賀より御米今日迄二五千八百石余大津着仕候
御事

一、越中新川古御米二千五百四拾四石 中納言様御分二而御座候由、其御地にて御帳之写二御座候へ共、新川出舟御奉行衆様より被遣御送状并岡廻り御帳之面二も御仕分無御座候付而、乍憚無御心元奉存、幸北川久太夫様御上京被成候故、御様子御尋申上候へハ、久太夫様も新川米ハ、中納言様御分二ハ在之候へ共、手前より然と定申渡義難被成旨被仰候二付而、飛脚を以申上候、御様子可被仰下候御事

一、新川御米少宛大津着仕候二付而、大津御奉行衆被仰候ハ、新川米ハ、中納言様御分にて在之候哉、左候者、中納言様御分御米之内九百石ハ大津ひしや源次方へ可相渡旨、御印有之候之間、

中納言様御分

加賀守様御分仕分仕相渡可申旨被仰候へ共、

御兩殿様御分御仕分之儀槌成被仰渡無御座候故、行当奉得御意候、新川御米、中納言様御分二御座候者、ひしや源次方へ右之通御米相渡可申候哉、御意次第二奉存候、恐惶謹言

大津罷在申候

錢や助左衛門

七月五日

内膳様
大学様

11 加賀守様御分三ヶ浦より積登御古米大津御蔵入御帳 明暦元・五 (表紙)

明暦元年
加賀守様分
三ヶ浦より積登御古米大津御蔵入御帳
未五月吉日

加賀守様御分御古米海津・大浦・塩津より積登セ於大津二御斗升を以升廻シ仕御蔵入之覧 (中略)

俵数合八千五百五石五斗四升九合 大津着

内拾壹石式斗壹升九合 御蔵入八千四百九拾四石三斗三升ノ水上蔵入質二渡ス

残テ

八千四百九拾四石三斗三升 御蔵入

升詰合八千百拾七石式斗壹升九合五勺

12 大津登米に付御印書等軸仕立文書

①三ヶ国古米大津登済に付御印書 明暦二・六・四

承応貳年加州越中能州古米

明暦元年大津登壹万式千四百拾壹石

右相済所如件

明暦貳年六月四日

(印文・複)

前囃(二四五〇石御家老)
奥村因幡(花押)
(正具、八千石)
津田玄蕃(花押)
(寄具、二万石、御家老)
前田对馬(花押)

錢屋

助左衛門

②登米洛御印遣に付達書 明暦二・七・二九
承応貳年分古米去年其方義才許大津登米敦賀にて升

廻、欠米分者出船御奉行取立遂御算用候之処、今度其方へ済 御印一所二被下候付而、出船御奉行手前書替墨引被成候間、其方より手形遣可申候、則案紙調遣之候、以上

七月廿九日 算用場(印)

錢屋

助左衛門

③大津登米に付指図達書 承応四・七・九

書札披見申候

一、敦賀より御米当月六日までに二千八百石余大津着之由、尤二候

一、越中新川登古米之事不残 中納言様御分二候之間、左様二可被得心得候、然者右米之内九百石菱屋源次方へ可相渡旨、御印有之由、左候者相応ほと源次方へ入可被申候、但其段ハ古米事にてハ有間敷候、新米大津登り御屋敷之御蔵と源次蔵と割符有之由承候、然共別ニ替義無之候者、其分ニ尤二候、又御積参事二候者、右之通候、其許奉行衆と相談尤二候、恐々謹言

伊藤内膳(花押)
(重具、二三百石、御算用場奉行)

七月九日

能州
菊池大学
(十六部直長三千石、御算用場奉行)

錢屋

助左衛門殿へ

④敦賀登り米升廻に付申渡書 承応四・四・五
今度宮腰より敦賀登り米升廻り斗升同斗子ほうとも

二能州散濱村舟頭彦十郎二相渡し為登申候条、其地
二て請取升まわし可被申候、いづれも判形いたし遣
候、以上

未 富田内蔵允(花押)

四月五日

小西次太夫(花押)
川勝三右衛門(花押)
駒井主水(花押)

宮腰錢や
助左衛門殿

13 宮腰より敦賀為登古米に付申渡書(後欠) 承応

四・四・二二

(表書)

富田内蔵助様等御四名宛跡損壞
卯月廿二日

(印)

今度宮腰より敦賀江積為登申古米高舟頭人々積候帳
面二記置通り以飛脚遣候間、送り引合請取可被申候、
以上

卯月廿二日 富田内蔵允(花押)

川勝三右衛門(花押)

小西次太夫(花押)

駒井主水(花押)

14 中納言様分升廻蔵入之覚 明暦元カ

中納言様御分越中新川御古米海津・大浦・塩津より
積登セ於大津二御斗升を以升廻シ仕御蔵入之覚

(中略)

俵数合千三百九拾四石六斗六升四合

内三石七升八合 御蔵并菱や源次蔵両所之御米俵高式千式百九
拾壹石五斗八升六合也水上蔵入質二渡ス
残而
千三百九拾壹石五斗八升六合 御蔵入

内八百九拾七石者 式重俵
内四百九拾四石五斗者 壹重俵

升詰合千式百九拾四石壹斗四升五合

菱や源次蔵入之覚

(中略)

俵数合九百石 内式百五拾式石五斗ハ 式重俵
内六百四拾七石五斗ハ 壹重俵
升詰合八百三拾八石五斗四升三合

15 海津・大浦出米之覚(錯簡)

(略)

i *升廻・・・藩政の時、御蔵人となつた俵米の実量を検す
るをいひ、御語米升廻と出船升廻とがある。(中略) 出船升
廻と称するは、江戸・大坂へ廻米の際、その出船の場所に
於いて升廻を行ふもので、またそれぞれ欠米補償があつた。
(加能郷土辞彙)

ii かんかん米・かん米・・・(かけまい(欠米)の変化した
語) 近世、年貢米や商い米を輸送する際に生じる欠損米を
補充するための付加米。(日本国語大辞典)

iii (札)庭米・・・駄別札の交付料として一駄を単位に問屋
が荷主から徴取するもの。大津方面へ登る上り荷に課せら
れた通行税を駄別銀と呼び、駄別札一枚と引換えに荷主が
藩に支払うこととされていた。(福井県史・通史編三 近世)

iv 斗棒・・・穀物を量る時に枡を平らにならす棒。枡掻き。
とほ。(日本国語大辞典)

銭屋助左衛門大津登米関係年表

承応4年(明暦元年)	
3月	銭屋助左衛門、御算用場奉行に大津御登米裁許の勤方につき伺いを立てる(史料3)
4月	加州米(宮腰出)が敦賀に到着する(史料2) 富田内蔵允ら、斗升・斗棒及び宮腰出の船頭の帳面を送る(史料12④・13)
5月	御算用場奉行、升廻等につき指示を与える(史料9) 能州米(散濱出)・越中米(岩瀬・伏木出)が敦賀に到着する(史料2)
7月	登米5,800石余が大津に到着する(史料12③) 銭屋助左衛門、中納言様分の新川米の取扱いにつき御算用場奉行に伺いを立てる(史料10) 御算用場奉行、中納言様分の新川米を菱屋源次蔵に入れるよう回答する(史料12③) 敦賀蔵宿の長見世屋茂左衛門ら、山中・新道野経由の大津登米目録を提出する(史料4・5)
8月	敦賀蔵宿の道川九左衛門ら、山中・新道野経由の大津登米目録を提出する(史料6) 新道野茶屋の西村孫兵衛、塩津経由の大津登米目録を提出する(史料7) 橋本彦九郎ら、海津・大浦経由の大津登米目録を提出する(史料8)
明暦2年	
6月	奥村因幡ら3家老、大津登米の済御印を発給する(史料12①)
7月	算用場、銭屋助左衛門より出船奉行へ(蔵入請取)手形を送るよう指示する(史料12②)

表1-1 敦賀蔵宿収納高一覧

敦賀着船日	積下し高	船頭	蔵宿	収納高
<宮腰出>				
4月13日	170	鳳至村五郎兵衛	三宅彦右衛門	68
			庄司太郎左衛門	34
			長見世屋茂左衛門	34
			木綿屋藤兵衛	34
4月13日	175	富来市右衛門	山下七郎兵衛	35
			海津屋左次右衛門	35
			富森久左衛門	35
			綿屋五郎右衛門	35
			鍵屋太郎兵衛	35
4月15日	200	大崎村十兵衛	道川九左衛門	200
4月15日	135	大崎村茂右衛門	山岡彦兵衛	135
4月15日	165	大崎村与兵衛	岐阜屋六兵衛	165
4月15日	135	大崎村次郎左衛門	清須屋吉兵衛	135
4月15日	135	大崎村長左衛門	布屋市右衛門	135
4月15日	165	根布村八郎兵衛	網屋伝兵衛	165
4月15日	150	川尻村孫右衛門	布屋吉兵衛	150
4月15日	120	宮腰与四右衛門	川瀬四郎右衛門	120
4月15日	100	川尻村十二郎	俵屋彦兵衛	100
4月15日	220	粟ヶ崎村吉兵衛	庄司茂右衛門	100
			川口善兵衛	120
4月15日	190	大野村兵三郎	綿屋五郎右衛門	90
			海津屋左次右衛門	100
4月15日	120	散濱村権兵衛	三宅彦右衛門	120
4月15日	220	粟崎村甚右衛門	庄司太郎左衛門	110
			木綿屋藤兵衛	110
4月15日	240	散濱村彦十郎	長見世屋茂左衛門	120
			山下七郎兵衛	120
4月16日	130	風無村三郎兵衛	富森久左衛門	130
4月20日	98	風戸村平左衛門	鍵屋太郎兵衛	98
4月21日	85	風戸村彦七郎	俵屋彦兵衛	85
4月21日	115	湊村兵左衛門	木綿屋藤兵衛	115
4月21日	190	百浦村久右衛門	海津屋左次右衛門	190
4月21日	155	本吉村五右衛門	山下七郎兵衛	155
4月21日	370	粟ヶ崎村善右衛門	布屋吉兵衛	200
			布屋市右衛門	170
4月21日	100	富来十兵衛	川瀬四郎右衛門	100
4月21日	170	富来源右衛門	山岡彦兵衛	170
4月21日	200	富来九左衛門	綿屋五郎右衛門	100
			富森久左衛門	100
4月21日	75	福浦村字次郎	海津屋左次右衛門	75
4月21日	90	富来彦丞	川口善兵衛	90
4月21日	167	福浦村孫右衛門	長見世屋茂左衛門	167
4月22日	155	湊村太郎兵衛	網屋伝兵衛	100
			川瀬四郎右衛門	55
4月22日	230	本吉村庄助	道川九左衛門	130
			鍵屋太郎兵衛	100
4月22日	237	本吉村仁兵衛	三宅彦右衛門	90
			岐阜屋六兵衛	80
			清須屋吉兵衛	67
4月24日	50	湊村長左衛門	川瀬四郎右衛門	50
4月24日	155	湊村忠右衛門	川瀬四郎右衛門	155
5月6日	120	大崎村太兵衛	木綿屋藤兵衛	60
			布屋吉兵衛	60
5月6日	110	日角村六左衛門	川瀬四郎右衛門	80
			網屋伝兵衛	30
			宮腰出 計	5,642石
<能州出>				
5月12日	163	富来伝兵衛	三宅彦右衛門	163
			能州出 計	163石
<岩瀬出>				
5月13日	950	魚津能登屋新左衛門	綿屋五郎右衛門	200
			富森久左衛門	200
			海津屋左次右衛門	400
			山下七郎兵衛	150

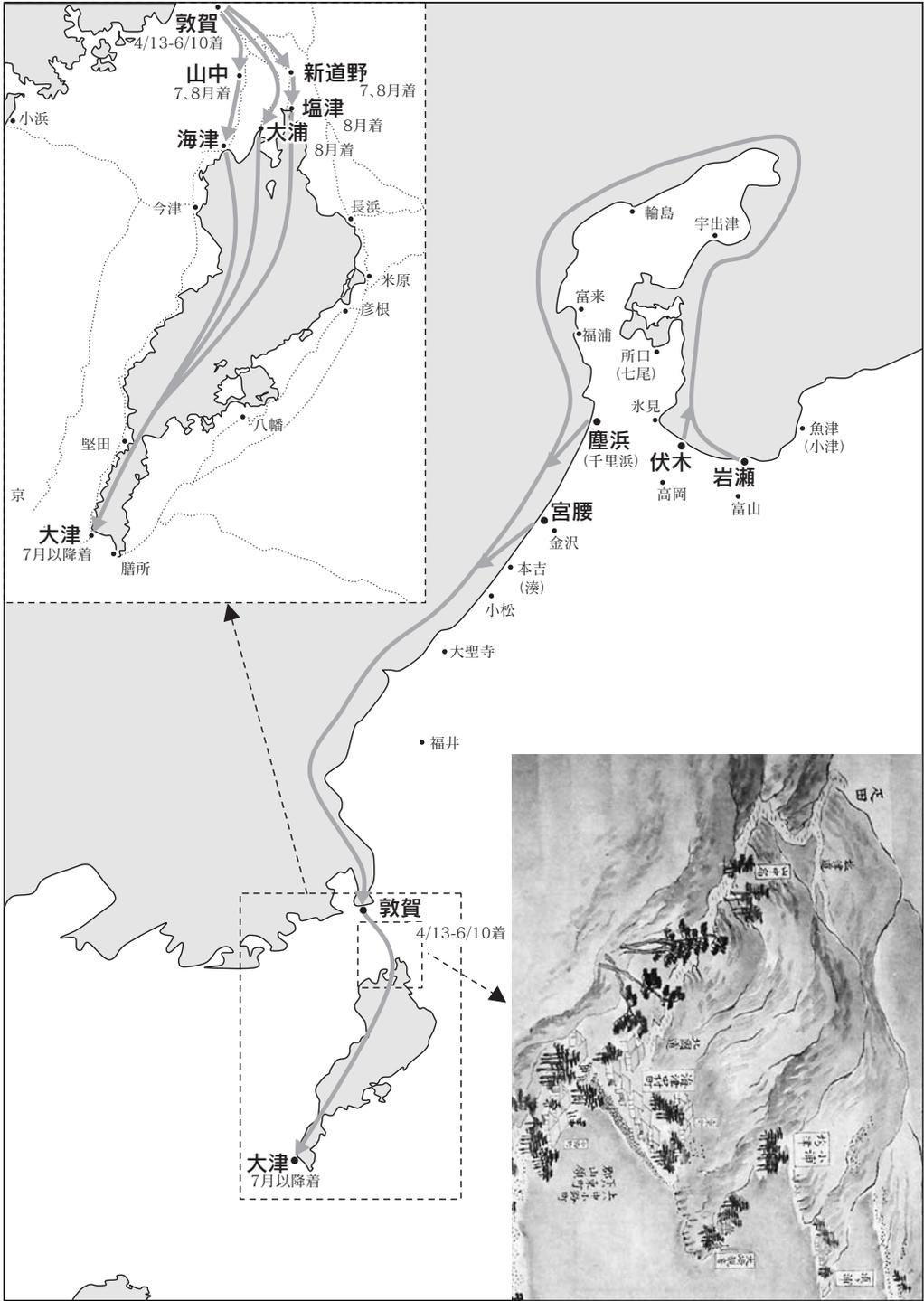
敦賀着船日	積下し高	船頭	蔵宿	収納高
5月13日	654	魚津能登屋小市郎	海津屋左次右衛門	400
			綿屋五郎右衛門	254
5月14日	60	西岩瀬金五郎	山下七郎兵衛	60
5月16日	57.5	東岩瀬藤右衛門	庄司茂右衛門	57.5
5月16日	57	東岩瀬八左衛門	木綿屋藤兵衛	57
5月19日	110	放生津清右衛門	庄司茂右衛門	110
5月20日	620	西岩瀬豊右衛門	庄司茂右衛門	300
			木綿屋藤兵衛	200
			富森久左衛門	120
5月29日	153.5	根布村八郎兵衛	木綿屋藤兵衛	153.5
			岩瀬出 計	2,662石
<伏木出>				
5月13日	150	伏木惣兵衛	道川九左衛門	150
5月13日	120	伏木仁兵衛	庄司太郎左衛門	120
5月13日	317	七尾助兵衛	川口善兵衛	317
5月13日	140	七尾左衛門	俵屋彦兵衛	140
5月13日	150	七尾善助	長見世屋茂左衛門	150
5月13日	110	七尾六郎兵衛	鍵屋太郎兵衛	110
5月13日	250	七尾弥右衛門	岐阜屋六兵衛	250
5月13日	215	七尾庄兵衛	山岡彦兵衛	215
5月14日	200	七尾久兵衛	布屋市右衛門	200
5月15日	280	七尾五郎右衛門	網屋伝兵衛	280
5月16日	120	高岡木町仁兵衛	三宅彦右衛門	120
5月18日	240	七尾十左衛門	庄司太郎左衛門	240
5月18日	190	高岡木町喜藏	道川九左衛門	190
5月19日	210	六渡寺村助三郎	鍵屋太郎兵衛	210
5月19日	130	放生津八兵衛	三宅彦右衛門	130
5月19日	120	氷見町藤兵衛	俵屋彦兵衛	120
5月19日	120	六渡寺村清兵衛	庄司太郎左衛門	120
5月20日	140	高岡木町左次兵衛	川口善兵衛	140
5月20日	120	高岡木町八郎右衛門	山岡彦兵衛	120
5月20日	200	七尾弥左衛門	長見世屋茂左衛門	200
5月20日	260	古府村清左衛門	三宅彦右衛門	130
			道川九左衛門	130
6月10日	162	七尾市郎右衛門	川口善兵衛	162
			伏木出 計	3,944石
			収納高 計	12,411石

表1-2 敦賀蔵宿収納高一覧(蔵宿別)

蔵宿	収納高
海津屋左次右衛門	1200
川口善兵衛	829
三宅彦右衛門	821
道川九左衛門	800
木綿屋藤兵衛	729.5
綿屋五郎右衛門	679
長見世屋茂左衛門	671
山岡彦兵衛	640
庄司太郎左衛門	624
富森久左衛門	585
網屋伝兵衛	575
庄司茂右衛門	567.5
川瀬四郎右衛門	560
鍵屋太郎兵衛	553
山下七郎兵衛	520
布屋市右衛門	505
岐阜屋六兵衛	495
俵屋彦兵衛	445
布屋吉兵衛	410
清須屋吉兵衛	202
総 計	12,411

※ 「御両殿様御米請取蔵入之帳」(37.2-2)による。

大津登米関係地図



琵琶湖東北西際之図 (16.84-112)

- 凡例
1. 太線は承応4年(1655)の大津登米における推定輸送ルートを示す。
 2. 太字は承応4年(1655)の大津登米における積出港、中継地又は蔵入地を示す。
 3. 図中の月日は当該地点における大津登米の到着月日を示す。

番号 標 題 年月日 型態 墨付 点数

I 役儀

11 養昌以前

六郎右衛門

1 前田利常知行宛行状 寛永13年8月5日 折紙 1
利常(花押)↓中村六郎右衛門 包有

庄兵衛

2 大坂御用帰り、御暇伊勢参宮につき届書写 寛文9年9月4日 長帳 2丁1

3 中村庄兵衛身上書 (元禄6年) 癸酉2月9日 一紙 1
青山将監与力中村庄兵衛・品川藏人与力大田左助↓永原左京・笹原織部(寺社奉行)〔奥書〕永原左京・笹原織部↓本多安房・長九郎左衛門・横山左衛門・奥村因幡・前田对馬

明組与力中村庄兵衛(花押)↓不破彦三・岡島市郎兵衛(寺社奉行)〔裏書〕「病死」(付箋・朱書)「中村庄兵衛」

平丞

4 中村平丞、稲垣組付与力召抱申渡状 元禄6年5月8日 折紙 1

5 与力召抱につき前田对馬等御判物請取書控 切紙 1
前田对馬(花押)・前田備前(花押)・奥村因幡(花押)↓稲垣三郎兵衛(包紙)稲垣三郎兵衛↓中村平丞殿

6 居屋敷稲垣三郎兵衛組屋敷近所にて申渡書 切続紙 1
中村平丞↓稲垣三郎兵衛(衛)

(元禄5享保) 10月9日
伊藤平右衛門(花押)・竹田五郎左衛門(花押)〔寺社奉行〕↓中村平丞(包紙)伊藤平右衛門・竹田五郎左衛門↓中村平丞

六郎左衛門

7 中村六郎左衛門、伴八矢家与力拜命一件(元文2・4年) 切続紙 11
①与力相統願につき委細御尋書 (元文2) 10月13日

八田判大夫(花押)・藤沢勘左衛門煩・奥田惣兵衛煩↓中村六郎左衛門
②与力忠左衛門跡願につき返書請取書 切紙
10月17日

八田判大夫(花押)・藤沢勘左衛門煩↓中村六郎左衛門
③与力願差出につき由緒帳入用依頼書 切続紙
10月18日

八田判大夫(花押)↓中村六郎左衛門
④由緒帳等請取につき与力願草案等近況書 切続紙
11月3日

八田判大夫(花押)↓中村六郎左衛門
⑤与力願首尾よきにつき案内書 切続紙
閏11月15日
八田判大夫(花押)↓中村六郎左衛門人々御中
⑥与力願草案加筆再届につき案内書 切続紙
閏11月15日
八田判大夫(花押)・藤沢勘左衛門(花押)↓中村六郎左衛門

- ⑦与力召抱申付書写 (元文4) 己未12月16日 切紙
玉井市正・前田齋宮・前田図書・本多頼母(家老) ↓伴八矢
- ⑧与力願聞届につき申渡書 12月16日 切続紙
八田判大夫(花押)・藤沢勘左衛門(花押) ↓中村六郎左衛門
- ⑨与力拜命につき布上下用意申渡書 切紙
12月16日
八田判大夫・藤沢勘左衛門 ↓中村六郎左衛門
- ⑩与力拜命につき御礼方心得申付書 切封
12月27日
山崎庄兵衛(寺社奉行) ↓中村六郎左衛門
- ⑪与力拜命につき御礼方申付添書 12月27日 切封
山崎唯右衛門・池田長兵衛 ↓中村六郎左衛門
- 12 養昌(武平・貞康・弥次郎・知左衛門)
- 1 中村弥次郎、明組与力召抱申渡状 切続紙 1
(明和5年) 戊子3月11日
西尾隼人(印)・大音帯刀(印)・伴八矢(印)・前田修理(印)〔菅原知定〕・前田兵部(印)・津田玄蕃(印)・松平大式(在江戸)・不破彦三(同)(家老) ↓篠原弥助・永原求馬・伊藤内膳(寺社奉行)〔継印〕〔菅原知定〕
- 2 飛州御用につき被下銀請取方写 (安永2年12月) 切紙 1
〔包紙〕前田美作 ↓岡田喜六郎
↓小林忠右衛門・中村弥次郎
- 3 寺社奉行衆役所反故紙撰出所持につき附箋 切紙 2
中村弥次郎貞康 天明元年閏5月9日撰出
- 4 勤功書下書 切続紙 1
(寛政3年) 辛亥7月20日
- 5 皆勤(十八カ年)につき御意書 切続紙 1
(寛政3年12月26日)
〔端書〕石亥八月廿五日調替出事
中村弥次郎 ↓前田修理・不破彦三・菊池大学(寺社奉行)
- 6 知左衛門出精につき白銀二枚目録下賜申渡書 切続紙 1
〔包紙〕寛政三年十二月廿六日
↓中村知左衛門
4月
- 7 御服御料紙裁許与力中村知左衛門烈勤につき金二百疋目録下賜申渡書 切続紙 1
〔端書〕付札 青木与右衛門江
年未詳
- 8 御服所等にて品々請払算用等引渡濟書 切続紙 1
〔端書〕付札 青木与右衛門江
享和2年5月
包有
- 9 皆勤につき勤功書差出申付書 (享和2年) 2月18日 切封 1
会所(印)〔江会〕 ↓中村知左衛門
沢崎宗右衛門 ↓中村知左衛門
- 10 寛政四々享和元年皆勤につき御意書 切続紙 1
↓中村知左衛門
(享和3年8月11日) 包有
- 11 勤功書控 袋綴 3丁 1
中村 判 ↓前田兵部・中川清六郎・品川主殿(寺社奉行)
(享和4年) 甲子2月
- 12 城方御用定役久々勤につき目録および書立 一紙 2
(文化3年) 5月29日 切続紙
- 13 城方御用定役勤功につき白銀等拝領礼状 一紙 1
〔文化3年〕丙寅5月29日
中村知左衛門 ↓前田式部・中川清六郎・竹田掃部(寺社奉行)

番号	標 題	年 月 日	型態	墨付 点数
14	雨天行歩指止につき御用番へ伝達申付書 本多安房守↓御城方与力中	3月10日	切続紙	1
13 敬忠(弥次郎)				
1	文化四〇十三年皆勤につき御意書 (文化14年) ↓中村弥次郎 (包紙)「文化十四年丁丑三月十五日」		切紙	1
2	せがれ文太郎、延之助様側勤につき名書 (文政13年)寅2月22日		切紙	1
3	御台所御賄方定加人申渡書并附札 天保元年12月17日 中村弥次郎↓前田式部・中川八郎右衛門・品川左門(寺社奉行) 篠原監物(印)(寺社奉行)↓中村弥次郎		切続紙	2
4	拝領目録(銀24匁) 〔端書〕「池之端様(齊広娘勇より(後略))」	天保10年12月11日	一紙	1
5	拝領目録(白銀6両) 〔端書〕「金谷様(真龍院)より(後略)」	天保10年12月22日	一紙	1
6	慶事御用等烈勤につき拝領目録(350疋) 〔端書〕「御次より(後略)」	天保10年12月23日	一紙	1
7	猷進等御用烈勤につき拝領目録(白銀6両) 〔端書〕「御次より(後略)」	天保10年12月23日	一紙	1
8	拝領目録(白銀24匁) 〔端書〕「御附方御用部屋より(後略)」	天保10年12月23日	一紙	1
9	当春以来烈勤につき拝領目録(300疋) 〔端書〕「和田倉様(齊広娘厚より(後略))」	天保11年4月16日	一紙	1
10	東海道廻御帰国御供烈勤につき拝領目録(200疋) 天保11年6月5日		一紙	1
11	御參勤御供御烈勤につき拝領目録(白銀5両) 〔端書〕「(前略) 從御用部屋相渡り候事」	弘化2年6月7日	一紙	1
12	台所御用烈勤につき拝領目録(300疋) 〔端書〕「(前後略) 從御用部屋」	弘化2年12月17日	一紙	1
13	拝領目録(白かね24匁) 〔端書〕「和田倉御前様より(後略)」	弘化2年12月20日	一紙	1
14	拝領目録(白銀6両) 〔端書〕「真龍院様より(後略)」	弘化2年12月23日	一紙	1
15	筑前守様御着御用等烈勤につき拝領目録(500疋) 〔端書〕「(前後略) 御用部屋より」	弘化3年丙午4月11日	一紙	1
16	御帰国御供烈勤につき拝領目録(白銀5両) 〔端書〕「(前後略) 御用部屋より」	弘化3年6月6日	一紙	1
17	御仕法方主附入精につき拝領目録(白銀2枚) 〔端書〕「(前後略) 渡瀬七郎大夫より」	弘化4年12月28日	一紙	1
18	中村弥次郎・小島九右衛門御台所御用出精につき加恩之沙汰 願書写 根来木工右衛門・芝山忠左衛門(御台所奉行)↓	嘉永元年6月22日	切紙	1
19	勤功書下書 中村弥次郎	嘉永元年6月	続紙	1
20	御用烈勤につき拝領目録(小判1両) 〔端書〕「(前欠) 方御用烈敷相勤(中略) 御表より(後略)」	12月26日	一紙	1

14 豫卿(豫・文太郎・知左衛門・知左)

- | | | | | |
|----|---|---------------|-----|---|
| 1 | 御仲間名跡につき案内状 | 10月朔日 | 切封 | 1 |
| | 南源左衛門↓中村文太郎 | | | |
| 2 | 明組与力召抱につき申渡書 | | 切続紙 | 1 |
| | (嘉永3年)庚戌10月2日 | | | |
| | 竹田市三郎・中川八郎右衛門・山崎庄兵衛・本多大学・成瀬掃部・前田万之助・前田図書・今枝内記(家老)↓前田内蔵助・大音帯刀・伊藤主馬(寺社奉行) | | | |
| 3 | 上下着用御用につき呼出書 | (嘉永3年)10月2日 | 切紙 | 1 |
| | 前田内蔵助(孝保 寺社奉行)↓中村文太郎 | | | |
| 4 | 御番入につき呼出書 | (嘉永3年10月) | 切続紙 | 1 |
| | 前田内蔵助(寺社奉行)↓中村文太郎 | | | |
| 5 | 召出につき御目見の次第申渡書 | 10月晦日 | 切続紙 | 1 |
| | 前田内蔵助(寺社奉行)↓中村文太郎 | | | |
| 6 | 召出御礼につき明日一日御番指除申渡書 | | 切続紙 | 1 |
| | (嘉永3年)庚戌10月晦日 | | | |
| | 前田内蔵助(印「菅原」)(寺社奉行)↓中村文太郎 | | | |
| 7 | 御用につき呼出書 | 年未詳 | 切封 | 1 |
| | 前田内蔵助(寺社奉行)↓中村文太郎 | | | |
| 8 | 役係名書 | (嘉永3年10・11月) | 切紙 | 2 |
| | ①(御先手物頭林源多郎手合)生山権之丞・中村文太郎 | | | |
| | ②(公事場附御用加人)中村文太郎 | | | |
| 9 | 御用につき呼出書 | (嘉永3年)11月5日 | 切封 | 1 |
| | 伊藤主馬(正延 寺社奉行)↓中村文太郎 | | | |
| 10 | 馬術稽古出精につき袴地下賜申渡及び拝領目録 | 切紙 | | 2 |
| | 嘉永4年2月4日 | 一紙 | | |
| 11 | 御用につき呼出書 | (嘉永4年)2月4日 | 切封 | 1 |
| | 伊藤主馬(寺社奉行)↓中村文太郎 | | | |
| 12 | 異国船手当林源多郎代、人見昌之進手合御用申付書 | (嘉永4年)亥9月8日 | 切紙 | 1 |
| | 前田外記(印「菅原孝備」)(寺社奉行)↓中村文太郎 | | | |
| 13 | 打木浜調練まで入江半蔵手合御用申渡書 | (嘉永5年)子閏2月5日 | 切続紙 | 1 |
| | 前田外記(印「菅原孝備」)(寺社奉行)↓中村文太郎 | | | |
| 14 | 打木浜調練方済につき入江手合御用済申渡書 | (嘉永5年)子閏2月25日 | 切続紙 | 1 |
| | 前田外記(印「菅原孝備」)(寺社奉行)↓中村文太郎 | | | |
| 15 | 海辺永統御手当人見昌之進江戸詰につき中村部手合御用申付書 | (嘉永5年)3月5日 | 切紙 | 1 |
| | 前田内蔵助(寺社奉行)↓中村文太郎 | | | |
| 16 | 打木浜調練につき拝領目録(白銀2枚) | 嘉永5年7月7日 | 一紙 | 1 |
| | 海辺永統御手当御用指除申付書 | (嘉永5年)子10月12日 | 切続紙 | 1 |
| | 前田内蔵助(印「菅原」)(寺社奉行)↓中村文太郎 | | | |
| 17 | 御用につき呼出書 | (嘉永5年)10月11日 | 切封 | 1 |
| | 前田内蔵助(寺社奉行)↓中村文太郎 | | | |
| 18 | 公事場附与力中村知左衛門御用入精骨折につき白銀二枚目録 | 嘉永5年12月28日 | 切続紙 | 2 |
| | 下賜申渡及び拝領目録 | | | |
| 19 | 御用につき呼出書 | (嘉永5年)12月28日 | 切紙 | 1 |
| | 本多求馬佐(左膳 公事場奉行)↓中村知左衛門 | | | |
| 20 | 御用につき呼出書 | (嘉永5年)12月28日 | 切紙 | 1 |

番号	標 題	年 月 日	型 態	墨 付 点 数
21	御用につき呼出書 前田外記(寺社奉行)↓中村知左衛門	2月2日	切封	1
22	江戸表御用につき用意出来次第発足申渡書 (嘉永6年)丑2月17日		切続紙	1
23	御用につき呼出書 前田外記(印「菅原孝備」)(寺社奉行)↓中村知左衛門 前田外記↓中村知左衛門	2月28日	切封	1
24	役係名書 ①(江戸御式台御帳附御用田丸左助代)中村知左衛門 ②(江戸近海異国船渡来之節余時警衛詰御小将頭手合御用)中村知左衛門 (嘉永6年)		切紙	2
25	病快方につき月代剃・行步願許可申渡書 (嘉永6年)丑7月3日		切続紙	1
26	公事場御用検使控 山崎七郎左衛門(印「源範正印」)(寺社奉行)↓中村知左衛門 中村知左衛門 (嘉永7)安政2)		横帳	106丁 1
27	取次方心得(公事場諸事写) 年未詳		袋綴	42丁 1
28	検使格合等 年未詳		袋綴	53丁 1
29	療養につき役儀免除願雛形 何与力 判↓三人殿(安政3年)丙辰何月日		切続紙	1
30	公事場附御用定役免除願につき許可申渡書 (安政3年)辰12月13日		切続紙	1
31	異国船手当高島守人手合御用申渡書 前田監物(印)(孝連 寺社奉行)↓中村知左衛門 (安政6年)未2月10日		切続紙	1
32	御用につき呼出書 織田左近(印「益堅」)(寺社奉行)↓中村知左衛門 品川左門(武好 寺社奉行)↓中村知左衛門 ①3月28日 ②11月15日		切封	2
33	横山故遠江守跡組普請役跡算用御用申渡書 (万延元年)申12月8日		切続紙	1
34	出勤書付につき青地左大夫様へ取計らい願書 織田左近(印「益堅」)(寺社奉行)↓中村知左衛門 ↓中村知左衛門	7月16日	切封	1
35	役係名書(横山故遠江守跡組御普請役裁許) 中村知左衛門 (文久元年)		切紙	1
36	横山故遠江守跡算用御用済申渡書 (文久2年)戌2月13日		切続紙	1
37	公事場附御用定役再役申渡書 織田左近(印「益堅」)(寺社奉行)↓中村知左衛門 (文久2年)戌4月7日		切続紙	1
38	異国船手当山崎頼母手合御用申渡書 篠原織部(印「篠原忠貞」)(寺社奉行)↓中村知左衛門 (文久3年)亥2月9日		切続紙	1
39	勤功書指出申付人名書 成瀬主税(印)(寺社奉行)↓中村知左衛門 (慶応2年)		切紙	1
40	勤功書下書 中村知左衛門↓ (慶応2年)寅12月		切続紙	1
41	拝領目録(白銀2枚) 年未詳		一紙	2
42	中村知左衛門刑獄寮二等承事免除申渡写 ↓生駒勘右衛門 (明治2年7月)		切紙	1
43	横山藏人(政和)申渡写添状 生駒勘右衛門(印)↓中村知左衛門 7月朔日		切紙	1

44	御用につき呼出書	8月15日	切封	1
	生駒勘右衛門↓中村知左衛門			
45	従四位様(利嗣)御次稽古御用につき申渡書、同写	(明治2年)12月5日	切紙	2
	学政所↓村田儀左衛門・長谷川鉄之助・荒木巻人・中村知左衛門			
46	銭札差越につき受取依頼書	12月28日	切紙	1
	衛門			
	長谷川鉄之助↓中村知左衛門			
47	稽古御用につき手当金および名書	年未詳	切紙	1
	長谷川鉄之助・村田儀左衛門・中村知左衛門			
48	四位様(慶寧)被下金指上申書	5月12日	切紙	1
49	素読御次御用免除につき申渡書	(明治3年)7月晦日	切紙	2
	①沢村家令(恒右衛門)↓学政所			
	②学政所↓中村知左衛門・村田儀左衛門			
50	組柄調につき詮議所へ出頭申付書	7月10日	切封	1
	太田勘左衛門↓中村知左衛門			
51	私組合指加りにつき給禄高指出申渡書	正月16日	切封	1
	富田弥六(貞固)↓中村知左			

15 起請文前書

1	寺社方并組外与力惣而御用につき起請文前書	年未詳	一紙	1
2	乞食人裁許につき起請文前書	(養昌)	一紙	1
	(安永4年)			
3	御城中諸事御用につき起請文前書		一紙	1

II 家

21 由緒・家系・判印鑑

4	買手役につき起請文前書	(天明5年)	切続紙	1
	(養昌)			
5	江戸町方にて値段聞等につき起請文前書	年未詳	一紙	1
	(養昌)			
6	諸事御道具等裁許につき起請文前書	[端裏書][天明6年9月晦日]	切続紙	1
	(養昌)			
7	預かり御道具等裁許につき起請文前書	年未詳	切続紙	1
	(養昌)			
8	道橋惣構廻り申御用につき起請文前書	年未詳	一紙	1
	[端裏書][別紙同断]			
9	御台所御賄方につき起請文前書	年未詳	切続紙	1
	(敬忠)			
10	勇姫様江戸表道中御供につき起請文前書	(天保2年)	切続紙	1
	(敬忠)			
11	役儀につき天罰起請文前書	年未詳	切続紙	1
	(敬忠)			
1	先祖由緒帳	天和3年3月23日	袋綴	6丁1
	中村庄兵衛↓青山将監(吉益)			
	(奥書)天明元年閏5月9日 中村弥次郎貞廉			

番号	標 題	年 月 日	型態	墨付 点数
2	先祖由緒帳 中村庄兵衛↓岡島市郎兵衛・不破彦三(寺社奉行) 〔奥書〕天明元年閏5月9日 中村弥次郎貞廉	元禄3年8月4日	袋綴	6丁1
3	先祖由緒一類附之帳 中村喜大夫↓山崎庄兵衛・本多主水・伊藤内膳(寺社奉行) 〔奥書〕天明元年閏5月9日 中村弥次郎貞廉	元文3年6月	袋綴	7丁1
4	先祖由緒一類附帳 中村喜大夫↓前田主殿助・伴八矢・不破彦三(寺社奉行) 〔奥書〕天明元年閏5月9日 中村弥次郎貞廉	宝暦3年12月	袋綴	9丁1
5	先祖由緒一類附帳 中村久左衛門↓寺西彈正・永原求馬・伊藤内膳(寺社奉行) 〔奥書〕安永9年 中村弥次郎武平	安永2年2月	袋綴	11丁1
6	先祖由緒一類附帳 中村弥次郎(養昌)↓中川八郎右衛門・三田村内匠・横山又五郎(寺社奉行)	天明元年5月	袋綴	9丁1
7	先祖由緒一類附帳 中村知左衛門(養昌)↓前田修理・前田内蔵太・品川主殿(寺社奉行)	寛政8年8月	袋綴	12丁1
8	先祖由緒一類附帳 中村弥次郎(敬忠)↓	文政12年6月	袋綴	15丁1
9	先祖由緒一類附帳 中村弥次郎(敬忠)↓前田内蔵助・篠原監物・伊藤主馬(寺社奉行)	嘉永2年閏4月	袋綴	9丁1
10	先祖由緒一類附帳(後欠)	〔奥書〕5月17日 青地左大夫・岡本三郎大夫↓中村弥次郎 文久3年	袋綴	2丁1
11	先祖由緒并一類附帳 中村知左衛門↓士族長	明治3年10月	袋綴	7丁1
12	先祖由緒一類附帳(前後欠) 〔中村知左平豫〕↓	(明治5年)壬申	袋綴	2丁1
13	湯原冲右衛門先祖由緒并一類附帳 湯原冲右衛門↓篠島権之助・岡島長六(定番頭)	文政8年3月	袋綴	12丁1
14	中村又大夫先祖由緒一類附帳 中村又大夫↓天野権左衛門・篠島権之助(定番頭)	文政13年閏3月	横半帳	7丁1
15	近藤九左衛門先祖由緒并一類附帳 近藤九左衛門↓宮崎藏人	天保4年7月	横帳	7丁1
16	豊島銭次郎先祖由緒并一類附帳 豊島銭次郎↓大村友右衛門(持筒頭)	天保15年3月	袋綴	6丁1
17	中村家先人顕彰碑銘文 中村之岑謹建	明和8年7月12日	一紙	1
18	中村家系図 〔端書〕「右石碑泉野寺町承証寺ニアリ」	天明4年2月	袋綴	9丁1
19	一門中名前所書 中村養昌	天明9年正月改	長帳	5丁1
20	家系帳 中村敬忠	文政9年秋	横帳	25丁1
21	先祖由緒一類付帳同姓「源」につき書状 中村十三郎↓中 知左衛門(豫)	9月27日	切続紙	1

22	同姓の儀「平」姓示合せにつき書状 中村央↓中 知左衛門(豫)	10月8日	切封	1	
23	中村家戸籍謄本 石川県鹿島郡七尾町長 芳野貞成(印)	大正4年11月9日	用紙綴2丁	1	
24	判印鑑 中村・養昌・貞廉等印影	年未詳	切紙	1	
25	判印鑑 〔包紙〕御用江戸神田鍛冶町二丁目 御印判師 佐々木石見 御賄方与力 中村弥次郎(敬忠)	天保10年8月	切紙	1	
26	判印鑑 中村弥次郎(敬忠) ①↓寺社奉行 ②↓地遠蔵宿 ③御台所 御賄方御用 ④御台所御賄方御用(印鑑)	天保11年6月 弘化3年8月	切紙	4	
27	判印鑑 中村弥次郎(敬忠) ↓野代屋徳次(蔵宿)	年未詳	切紙	1	
28	家紋・印鑑 中村弥次郎(敬忠)	嘉永3年10月	切紙	1	
29	判印鑑 中村文太郎(豫) ↓(与力) 才許衆	嘉永4年6月	切紙	1	
30	判印鑑 中村文太郎(豫) ↓遠所蔵宿	万延元年10月	切紙	1	
31	判印鑑 中村知左衛門(豫) ↓野代屋徳次(蔵宿)	大正4年11月27日	用紙	1	
32	印鑑証明書 石川県鹿島郡七尾町長 芳野貞成(印) ↓中村民作			1	
22	知行(所附・蔵宿等)				
1	知行所附高算用書写 (文化4年) 丁卯5月日 算用場↓中村弥次郎(敬忠)	文化4年5月	一紙	1	
2	知行所につき高・百姓仕分け申上書	文化4年5月	切紙	1	
3	知行所につき高・百姓仕分け申上書 四十万村肝煎三郎右衛門・組合頭市右衛門・徳左衛門・新左衛門・久右衛門↓中村弥次郎台所 (裏書 高尾村茂八(十村))	文化4年5月	切紙	1	
4	新庄村肝煎与三次郎・組合頭市助・小五郎↓中村弥次郎 許人 (奥書 高田村喜三次(十村))	文化4年6月	包有	1	
5	鹿間屋久左衛門蔵宿につき請人証文 請人所口町加藤屋善右衛門・鹿間屋忠右衛門↓中村弥次郎 (裏書 斎藤中務(所口町奉行))	文化7年12月	一紙	1	
6	越中屋喜兵衛蔵宿につき請人証文 請人所口町多根屋宇左衛門・小栗屋清兵衛↓中村弥次郎	文化7年12月	一紙	1	
7	新庄村収納米蔵宿・請人縮方申渡願書 中村弥次郎↓斎藤中務(所口町奉行) (裏書 斎藤中務)	天保7年12月	一紙	1	
8	馬坂新町野代屋徳次蔵宿縮方申渡願書 中村弥次郎↓町会所 (裏書 町会所(印)〔金沢町会〕)	弘化3年8月	切紙	1	

II 家(22) 知行 23 遺書・相続・養子・縁組

番号	標題	年月日	型態	付点数
9	御蔵返米切手御渡につき呼出書 伊藤主馬(寺社奉行)↓中村文太郎	11月24日	切封	1
10	知行仮所附御渡につき呼出書 (嘉永4年)5月4日 小幡主膳(寺社奉行)↓中村文太郎(豫)		切封	1
11	知行所附高算用書写 算用場↓中村文太郎 (嘉永4年)辛亥5月日		一紙	1
12	酒屋喜兵衛蔵宿につき請人証文 嘉永4年5月 一紙 請人羽喰郡堀松村喜三右衛門・彦左衛門・末吉村又八↓中村文太郎 御收納所		一紙	1
13	知行所につき高・百姓仕分け申上書 嘉永4年5月		一紙	1
14	矢駄村肝煎助十郎・組合頭義平・孫三・惣兵衛・仁郎兵衛↓ 中村文太郎 (奥書)堀松村弥五郎(十村) (裏書)板坂八三郎 (改作奉行)		一紙	1
15	矢駄村収納米蔵宿・請人縮方申渡願書 嘉永4年5月		一紙	1
16	中村文太郎↓能州御郡所 (裏書)岡田喜内・斎藤与兵衛・小堀牛右衛門・岩田眷蔵(能州御郡奉行)		一紙	1
17	野代屋徳次蔵宿縮方申渡願書 慶応2年2月 中村知左衛門↓町会所 (裏書)町会所		一紙	1
18	蔵宿預米売渡につき御渡依頼書 明治2年10月 切続紙 中村知左衛門↓堀松酒屋喜兵衛 (奥書)佐野屋小兵衛 (付箋)明治3年)午2月 蔵宿吟味人中川村丈太郎		切紙	1
19	御米預証文 明治2年11月		切紙	1
20	堀松蔵宿酒屋喜兵衛↓中村知左衛門		一紙	1
21	預米売渡につき御渡及び代錢受取依頼及び下書 一紙 明治4年3月2日 切紙		一紙	2
22	知左衛門事中村知左↓堀松酒屋喜兵衛 明治2年預米決算につき済証文渡願書 明治4年12月		一紙	1
23	遺書・相続・養子・縁組 遺書 堀松蔵宿酒屋喜兵衛↓中村知左衛門		一紙	1
24	中村知左衛門遺書 (享保15年)庚戌10月17日 一紙 明組与力中村知左衛門(花押)↓生駒右近・伊藤内膳・成瀬内匠(寺社奉行)		一紙	1
25	中村知左衛門遺書 (元文3年)戊午正月5日 一紙 明組与力中村知左衛門(花押)↓山崎庄兵衛・本多主水・伊藤内膳(寺社奉行)		一紙	1
26	中村喜大夫遺書 宝暦11年8月6日 一紙 明組与力中村喜大夫(花押・印(直之))↓伴八矢・大音七左衛門・永原求馬(寺社奉行)		一紙	1
27	中村弥次郎遺書 天明6年8月 一紙 中村弥次郎(養昌)判↓西尾隼人・横山又五郎・篠原監物(寺社奉行) (端裏書)「開闢院様」		一紙	1
28	中村知左衛門遺書 寛政5年3月 一紙 中村知左衛門(養昌)判↓前田修理・菊池大学・品川主殿(寺社奉行)		一紙	1
29	中村知左衛門遺書 寛政11年8月 一紙		一紙	1

- 14 中村知左衛門(養昌)判↓前田修理・前田内蔵太・品川主殿
(寺社奉行)〔端裏書〕遺書控
- 7 中村弥次郎遺書 天保2年9月11日 一紙 1
中村弥次郎(敬忠)(花押)↓前田式部・篠原監物・品川左門(寺社奉行)
- 8 中村弥次郎遺書 天保10年6月 一紙 1
中村弥次郎(敬忠)(花押)↓前田式部・篠原織部・品川左門(寺社奉行)
- 9 中村弥次郎遺書 嘉永2年5月10日 一紙 1
中村弥次郎(敬忠)↓前田内蔵助・篠原監物・伊藤主馬(寺社奉行)
- 10 中村知左衛門遺書 嘉永6年3月 一紙 1
中村知左衛門(豫卿)↓前田内蔵助・前田外記・山崎七郎左衛門(寺社奉行)
- 11 庄吉幼少につき相統等内存書 (天明6年)8月 切紙 1
相統・養子
中村弥次郎(養昌)↓西尾隼人・横山又五郎・篠原監物(寺社奉行)
- 12 弟又三郎養子差遺願書(文化13年)丙子4月23日 切紙 1
明組与力中村弥次郎(敬忠)↓津田玄蕃・横山図書・前田織江・前田修理・前田内記・前田権佐・青山将監・横山右京・竹田掃部
- 13 弟又三郎養子許可申渡書 (文化13年)丙子7月13日 切紙 1
青山将監(印「青山知次」)・竹田掃部・横山右京(寺社奉行)↓中村弥次郎(敬忠)
- 14 御子息養子につき書状 4月25日 切封 1
中村藤次郎↓中 知左衛門
- 15 三男四男養子差出一件 袋綴 3丁 1
(近岡家)・養子指遺願写 明治6年3月
士族中村予卿↓石川泉令内田政風
・養子遣入用留 明治5年4月6日
(向家)・養子縁組証文 明治6年10月25日
向之政(印)↓中村(奥書)請負人松田久次郎(印)
- 16 縁組
中村弥左衛門妹、喜大夫縁組願 続紙 1
(寛保元年辛酉4月2日)
野村七兵衛(花押)・溝口舍人(花押)↓横山大和守・本多安房守・前田土佐守・前田对馬守・村井主膳・本多頼母・横山蔵人・前田図書・前田大学・玉井市正
〔裏書〕辛酉12月16日 前田土佐守(印「菅原直躬」)・玉井市正(印「玉井貞衛」)・前田大学(印「菅原知久」)・前田図書(印「□□貞直」)・横山蔵人(印「正從」)・本多頼母(印「藤印政恒」)・村井主膳(印「平印長堅」)・前田对馬守(印「菅原孝資」)・本多安房守(印「藤印政昌」)・横山大和守(印「□堅貴林」)
- 17 御子息淳左衛門と妹縁組示談につき書状 切紙 1
↓駒井静右衛門 (文政4年)巳3月14日
- 18 駒井静右衛門せかれ淳左衛門と妹縁組につき願書 切紙 1
(文政4年)辛巳4月22日
明組与力中村弥次郎(敬忠)↓今枝民部・津田玄蕃・横山蔵人・前田織江・前田中務・前田修理・前田内記・前田権佐・青山将監・山崎庄兵衛・富田外記

番号	標 題	年 月 日	型 態	付 点 数	24 儀礼(出生・元服・改名・法事・年中行事等)
19	進上目録(白銀・御扇子・御香) 中村弥次郎敬忠	年未詳	豎紙	1	1 民之助出生届下書 (嘉永6年)丑9月24日 切紙 (豫卿)↓前田内蔵助・前田外記・山崎七郎左衛門(寺社奉行)
20	豫卿再縁につき一類附 中村知左衛門(豫)↓荒井治兵衛(横山斎宮与力)	(慶応2年)寅9月	切紙	1	2 禎雄出生到来物来客等記 明治16年8月 横帳 11丁 3 せかれ文太郎角入につき申渡書 (天保9年)戌11月8日 切続紙
21	豫卿再縁につき荒井治兵衛一類附	慶応2年9月	切続紙	1	
22	小袖たんす等嫁入道具目録 あら井↓中むら	(慶応2年)9月22日	切紙	1	4 品川左門(印)(武住 寺社奉行)↓中村弥次郎(敬忠) せかれ文太郎前髪執につき申渡書 (天保11年)子11月17日 切紙
23	娘とも結婚より離縁まで一件写 豫卿	明治21年10月18日	罫紙綴10丁	1	品川左門(印)(寺社奉行)↓中村弥次郎(敬忠)
24	禎雄婚姻につき式日料理・輿入・道具運等覚	(大正5年6月)	切紙	1	改名 5 中村氏考名 天明元年5月吉日 切紙 福岡昭順之義謹識 6 考誌実名 天明6年5月 折紙 不鳥見幾↓中村弥次郎 7 中村弥次郎敬忠 実名書 文化10年3月吉日 折紙 藤 元知↓中弥丈 (包)「実名并花押 有叔斎」 改名願聞届書 (嘉永5年)子10月22日 切続紙 前田外記(印「菅原孝備」)(寺社奉行)↓中村文太郎(豫)
25	禎雄婚姻につき献立書上	(大正5年6月)	切続紙	1	
26	婚姻につき御土産目録	年未詳	折紙	1	
27	婚姻につき御道具目録	年未詳	一紙	1	
28	禎雄婚姻につき祝状 大島多計比古↓中村民作・中村禎雄	(大正5年)7月2日	切続紙	1	
29	禎雄婚姻につき祝状 [封]名古屋市東区東外堀町大島多計比古↓金沢市新豎町中村民作	大正5年7月4日	切続紙	1	8 改名願聞届書 (嘉永5年)子10月22日 切続紙 前田外記(印「菅原孝備」)(寺社奉行)↓中村文太郎(豫)
30	目録(三種・酒・肴) [封]七尾町字府中奥田頼太郎↓金沢市新豎町中村民作	年未詳	一紙	1	9 実名書 西阪衷 撰(印「西坂衷」夢錫) 天保11年11月 折紙 10 嫡子民之助改名につき届書 (明治3年)庚午10月7日 切紙 中村知左衛門(豫)↓学政所 [貼紙]「受書十月学政所」

法事

11 先祖代々遠忌供養執行記 (明和5〜寛政10年) 袋綴 9丁1

中村知左衛門養昌

12 法事執行諸事覚帳(10件合綴) 長帳 36丁1

・寛政10年9月17日 中村知左衛門養昌

・嘉永元年9月17日 中村弥次郎敬忠

・嘉永元年12月8日 中村弥次郎

・嘉永2年12月 中村文太郎・嘉永3年5月 中村文太郎

・亥5月14日・丑8月19日・丑12月・卯5月

・(安政4年)巳8月

13 受戒(実相院妙薫日量大姉) 天保10年6月24日 続紙 1

現宝円源珊瑚叟

14 御尋につき中村弥五左衛門三代院号書上 切紙 1

年未詳

15 中村六郎右衛門等六人忌日書上 年未詳 切続紙 1

16 真操院三回忌諸事留 (慶応4年)辰4月 長帳 2丁1

17 玉蓮院一周忌等諸事留 明治13年8月8日 長帳 2丁1

18 玉蓮院殿十三回忌記 明治24年8月2日 長帳 2丁1

中村氏

年中行事等

19 社参之次第 天明8年正月28日 折紙 1

野尻直啓↓(中村弥次郎)

20 神拝之聞書 天明8年正月28日 列帳 7丁1

中村養昌

21 家事(中村家年中行事等) 年未詳 袋綴 16丁1

平中村弥次郎貞廉

25 屋敷・住所

1 父跡屋敷拝領許可申渡書 切続紙 1

(安永7年)戊戌7月21日

中川八郎右衛門(印「寄忠」)↓中村弥次郎(養昌)

(前書)金森猪之助・岡田八兵衛・浅加隼人(普請奉行)

↓中川八郎右衛門・三田村内匠・横山又五郎(寺社奉行)

2 居宅借受につき取決証文 切続紙 1

(天明5年)乙巳9月24日

井上八十郎(花押)↓中村弥次郎(養昌)

3 屋敷図綴(22枚) (天明〜明治) こより綴 1

4 中村知左衛門屋敷拝領願につき申渡書 切続紙 1

(嘉永5年)壬子12月13日

前田内蔵助(印「菅原」)↓中村知左衛門(豫)

(前書写)山森雄次郎・岡田与一・土肥吉之丞・团七大夫・大

藪織部(普請奉行)↓前田内蔵助・前田外記・山崎七郎左衛門

(寺社奉行) 切紙 1

5 家作見計らいにつき七尾へ発足届控 切紙 1

↓金沢県庁 (明治5年)壬申正月24日

6 家禄・身分・居所等届書 明治7年11月 切紙 1

中村豫卿

7 住所寄留届 大正5年10月 罫紙 1

中村民作↓金沢市長 山森隆

(奥書)家主 杉本洋次郎 文案代書 永田弥兵衛

番号	標 題	年 月 日	型態	墨付 点数
26	家計(家計簿・寄付・借財等)			
1	窮民救済につき寄付聞届申渡書 (明治3年) 3月22日 藩庁↓中村知左衛門 (端裏書「学政所江」)		切続紙	1
2	窮民救済につき寄付金受取書 会計局(印)↓中村知左衛門	明治3年3月	一紙	1
3	金禄改定布達写 石川県権令 桐山純孝	明治8年11月22日	罫紙 1丁	1
4	金禄御改正御請証 第七大区小三区所口村新建四番邸士族中村予卿↓石川県権令 桐山純孝	明治9年11月10日	罫紙	1
5	金禄改正につき石円換算・証書返納・請証等留 中村豫卿	明治9年	罫紙	1
6	金禄証 石川県大七大区(印)↓中村豫卿(印)	明治10年8月	切紙	1
7	金禄公債利子金領収書控 鹿島郡七尾町字亀山町75番地 士族中村民作↓第十二銀行 七尾支店	明治22年11月4日	罫紙綴 1丁	1
8	金銭入払帳 明治10年11月28日〜18年1月		長帳 (台綴) 234丁	1
9	金銭入払帳 第六 中村 明治18年2月5日改〜23年3月		長帳 141丁	1
10	金銭入払帳 明治21年2月1日〜27年12月		長帳 45丁	1
11	金銭収入支出録 明治42年4月28日〜44年12月24日		横帳 71丁	1
12	金銭出納簿 桃軒子惇 (中村民作)・独樂楼	明治45年1月改 大正3年6月増補	横帳	87丁
13	消費費月末統計 中村民	大正9年1月	横帳	37丁
14	金銭収支日計簿 ①大正10年7月13日〜12年6月14日 ②昭和2年1月改〜3年11月29日		横帳	41丁
15	呉服商売仕切書(錯簡仮綴り)年末詳 桃林庵		(長帳)	15
16	門弟より月謝および贈答品書上 明治22年4月〜25年8月		罫紙綴 4丁	1
17	小遣帖 ①明治27年7月 ②明治33年1月		横帳	21丁
18	軍資金献納承認状 海軍省経理局長海軍主計総監正五位勲三等川口武定↓中村民作	明治27年9月15日	一紙	1
19	明治27・28年戦役軍資金献納につき感謝状 石川県知事従四位勲四等古沢滋↓石川県能登国鹿島郡崎山村中村民作	明治30年6月1日	一紙	1

20	有体動産売渡証 鹿島郡七尾町字龜山町中村民作↓寺谷やい	罫紙綴3丁1		
21	有体動産賃貸借契約証 賃借人鹿島郡七尾町字龜山町中村民作↓寺谷やい保証人中村禎雄・七尾町字一本杉町横川幸吉〔奥書〕「確定日付第貳百八号」〔印〕「大正四年七月十六日七尾区裁判所」	大正4年7月10日 罫紙綴4丁1		
22	年賦償還借入請求書等綴 鹿島郡七尾町字龜山町中村民作↓株式会社石川県農工銀行頭取本多政以	大正4年7月 罫紙他4枚1		
23	年賦償還借入請求書等返送につき依頼書 石川県農工銀行(印)↓釣谷他吉	大正4年8月6日 罫紙 封筒有		
24	物件延期承諾書 鹿島郡七尾町字富岡町寺谷やゑ↓中村民作	大正4年9月30日 罫紙綴3丁1		
25	流用貸借覚附関係払方及び転宅入費記録 中村民作 石蘭亭	大正4年9月19日〜7年11月 横帳 9丁1		
26	借入金証書・承認証・特約依頼証 中村民作(印)・中村多仁(印)・中村禎雄↓南助作	大正5年5月19日 用紙 3		
27	領収証 金沢市豎町南助作(印)↓中村民作	大正5年5月19日 罫紙 1		
28	借入金三ヶ月賦表 返済金不足につき案内書簡附計算書	年未詳 罫紙 1		
29	河原町十三番地南助作↓中村民作	7月15日 切続紙 2		
30	抵当権設定につき不動産登記通知書 七尾区裁判所(印)↓鹿島郡七尾町字龜山町中村民作	大正6年2月2日 用紙 1		
31	有体動産貸付等請求金額内訳書	年未詳 罫紙 1		
32	利子受取書および添書 株式会社田鶴浜銀行(印)↓中村民作	大正7年12月10日 用紙他 封筒有 2		
33	貸付金領収書 七尾銀行貸付係石井和三郎↓中村禎雄	大正8年4月4日 用紙 封筒有 1		
34	貸金元利請求書 株式会社田鶴浜銀行(印)↓龜山町中村民作	大正8年11月28日 用紙 2		
35	龜山町宅地等抵当権設定につき承諾書等綴附測量図 ①田鶴浜銀行取締役永江久常(印)等 ②測量者 天井清之助(印)	大正9年5月24日 罫紙綴16丁 切紙		
27 日記・諸事留・雑録等				
	中村養昌一代記 中養	明和5年3月〜享和4年 袋綴 89丁1		
	起止録 豫卿 石蘭亭主人 紹成堂主人	天保9年〜明治17年 袋綴 94丁5		
	①天保の巻 ②弘化の巻 ③嘉永の巻 ④安政・文久・元治の巻 ⑤明治の巻	112丁・69丁		
	独閑風月遊 下之記(永無月) 紅葉庵 豫卿	横帳 16丁1		
	三崎行遊記 中村豫卿	(明治12年) 袋綴 7丁1		

番号	標 題	年 月 日	型 態	墨 付	点 数
5	日録・日誌 (明治・大正)		罫紙綴		6
	①石蘭亭	明治24年4月～30年12月			
	②石蘭亭	明治42年1月～44年7月			
	③(民作)	大正8年1月～12月			
	④静観楼	大正9年1月～10年12月			
	⑤桃林庵主人	大正11年1月～12年12月			
	⑥桃林庵	大正13年1月～14年12月			
6	掌略記 静観楼子惇	(明治・大正)	罫紙綴	132丁	2
	①第三号	明治43年		15丁	
	②四号				
7	園圃日録(園芸日誌) 白桃園	大正4年仲秋～15年	罫紙綴	17丁	1
8	住所録等雑記帳 雑稿紙	(明治・大正)	横小帳	58丁	1
	桃林庵	昭和3年9月	袋綴	3丁	1
28 書状・書簡					
1	東武出立に伴い御国染一反贈送につき書状 本多安房守(政行)↓中村弥次郎(養昌)	(天明6年)9月14日	切封		1
2	御国染一反拝領御礼状控 中村弥次郎(養昌)↓安房守様御止宿衆中	(天明6年)9月14日	切続紙		1
3	忌中見舞及び素麵贈送につき書状 (天明8年)8月5日		切封		1
4	安房守様御書御礼及び今日より出勤につき書状控 中村↓御近習様方	(天明8年)8月10日	切紙		1
5	出産見舞及び葛粉・蠣贈送につき書状 本多安房守↓中村弥次郎	(寛政3年)7月9日	切封		1
6	療養見舞及び烏賊鮓贈送につき書状 本多安房守↓中村弥次郎	11月1日	切封		1
7	葱・鴨贈送につき書状 本多安房守↓中村弥次郎	11月24日	切封		1
8	葱・鴨贈送及び珍書差越につき書状 本多安房守↓中村弥次郎	12月7日	切封		1
9	東武出立につき見舞状 本多安房守↓中村知左衛門(養昌)	(寛政5年)3月16日	切封		1
10	痘瘡治癒見舞及び干饅飴贈送につき書状 本多安房守↓中村知左衛門	(寛政8年)4月晦日	切封		1
11	帯刀領の葱および鴨贈送につき書状 (本多安房守↓中村知左衛門)	正月20日	切封		1
12	本吉鮓贈送及び材木町麗操院につき書状 本多安房守↓中村知左衛門	10月20日	切封		1
13	帯刀領の葱および鴨贈送につき書状 本多安房守↓中村知左衛門	12月21日	切封		1
14	来駕及び漢詩加筆依頼状 林清次郎↓中 文太郎	西4月6日	切封		1
15	学問等につき書状 佐藤元知(印)↓大俊傑中村賢契・大英傑豊島賢契	8月3日	切続紙		1

II 家(28 書状・書簡 29 事件・その他)

番号	標 題	年 月 日	型 態	墨付 点 数
41	中村外与二郎帰県につき書簡 近岡半兵衛↓庄兵衛母(明治17年)	4月23日	切紙	1
42	外与二郎二週間暇願につき書簡 半兵衛↓中村豫卿(明治17年)	4月30日	切続紙	1
43	外与二郎帰省到着通信文につき返書 近岡半兵衛↓中村外与二郎(明治17年)	5月19日	切続紙	1
44	外与二郎心得違いにつき論し依頼書 近岡半兵衛↓中村外与二郎(明治17年)	6月1日	罫紙	1
45	御厚情御礼および外与二郎など近況報告 近岡半兵衛↓中村豫卿・同御二人	10月31日	切続紙	1
46	御香料および外与二郎小遣い受取り書 近岡半兵衛↓御馬出し 中村豫卿	12月7日	切続紙	1
47	八田村亀井貸金の義につき依頼書 近岡半兵衛↓中村豫卿	12月26日	切続紙	1
48	袴・羽織代金等調送につき依頼書 近岡半兵衛↓中村先生	12月26日	切続紙	1
49	横浜から四日市に帰宅につき書簡 青山延寿↓中村賢兄〔添書〕読史雜詠添る	12月11日	切紙	1
50	鹿肉到来につき礼状 井口濟↓中村豫卿	12月	切紙	1
51	封書・鹿肉受取状 井口無加之(印)↓中村豫卿	12月9日	切紙	1
52	御馳走につき御礼状 (明治18年)		罫紙	1
53	井口妙笑↓中村豫卿 新栄の家屋移住等につき書状	久西4月	一紙	1
54	御馳走御礼状 梅村近義↓中村君立軒英賢 江草富喜(為彦)↓中村老翁	明治21年8月19日	切紙	1
55	御二男外与二郎東京差遣につき書簡 本郷前田様御邸内大島善太郎↓中 豫卿	明治10年7月22日	用紙	1
56	金沢在中御厚情につき帰名後礼状 大島多計比古↓中村民作・同 禎雄(封)名古屋市東外堀町 大島多計比古↓金沢市新豎町中村民作・同禎雄	(大正5年)8月7日 明治21年1月1日	切続紙	1
57	新年につき賀状 笠松久太郎↓立軒先生	明治21年1月1日	一紙	1
58	揮筆等につき書簡 河波有道↓中郵雅兄(豫卿)	7月11日	切続紙	1
59	奇人特志の人物と会席等につき書簡 河波有道(櫻園)↓中村雅兄	7月18日	切続紙	1
60	入山間の漢詩披露等につき書簡 (佐)藤暢↓立軒	10月21日	切封	1
61	家作祝いとして紅魚五尾送り状 杉村精一↓中村豫卿・同 民作	11月1日	切紙	1
62	字典代価につき書簡 杉村精一↓中村先生	11月14日	切封	1
63	新年につき賀状 長連孝↓中郵立軒先生・杉村青溪先生・松田袖易先生	明治18年1月18日	切続紙	1
64	提灯返却および漢詩勘校願につき書簡		切封	1

65	土田守直(源四郎)↓立軒先生 御令息師範校入授につき返書 豊島毅↓中村豫卿・卯野良	年末詳 1月16日	切続紙	1				
66	拝借書籍返却猶予等につき書簡 外山兵衛↓ (明治21年8月)		切続紙	1				
67	警官奉職等につき書簡 東京府麻布警察署勤務仲島豊吉↓中村立軒先生	明治21年6月5日	切続紙	1	1	喜大夫倅庄兵衛、家来手討等留書 宝暦元・2年	長帳	1丁1
68	新年につき賀状 中野徳次郎↓杉村精一・中村豫卿	明治18年2月20日	切続紙	1		・中村喜大夫↓河地次太夫・勝俣平蔵・坂井兵右衛門・寺西紋太夫 ・九里治兵衛↓多賀宇兵衛・横山木工・生駒内膳		
69	私方にて養生願い等書簡 東方真平(履・芝山)↓中村知左	5月16日	切紙	1				
70	賀詩預かりにつき御札等書簡 藤田維正↓中村賢台	3月26日	切紙	1	2	筑前守様(慶寧)学校剣術御覧につき出座申付伝書 (弘化3年)丙午正月24日	切封	1
71	県庁へ願方等書簡 藤田維正↓中郵君	10月28日	切続紙	1	3	学校出座方(筑前守様御覧欠席)につき呼出書 (弘化3年)丙午正月晦日	切封	1
72	貴家滞在御札等書簡 藤原確斎↓中村民作	(明治21年)5月28日	切続紙	1		山崎岩之丞↓中村文太郎(豫)		
73	経書の講蒙につき謝意状 鹿島郡書記堀宗太郎↓中村豫卿	明治18年2月20日	切紙	1	4	筑前守様学校剣術御覧、欠席につき申立書 (弘化3年)正月晦日	切続紙	1
74	祝筵不参につき書簡 松田久平(袖陽)↓中村豫卿	10月17日	切封	1		中村文太郎(花押)↓山崎岩丞(付箋)二条与申義八何ノ事歟、不相分候間、其訳合為調可被申候事		
75	隠居祝につき酒魚進呈等書簡 守山陶吉↓中村先生	11月22日	切紙	1	5	申渡義有につき呼出書(弘化3年)丙午3月27日	切封	1
76	予卿子息師範学校入学志願につき書簡下書(後欠) 年末詳		切続紙	1	6	筑前守様経武館剣術御覧、欠席不心得につき外出指留申渡写 ↓松平玄蕃(寺社奉行)等(弘化3年)	切続紙	1
77	「心底香記」返却および漢詩勘校願書簡 8月1日		切続紙	1	7	嫡子文太郎義につき呼出書(弘化4年)5月朔日 伊藤主馬(寺社奉行)↓中村弥次郎(敬忠)	切封	1

78 前金御渡依頼等書簡
和田(野崎や二テ)↓後藤
8月11日 切紙 1

29 事件・その他

II 家(29) 事件・その他

III 学校等(31) 明倫堂・孝友堂

番号 標 題 年月日 型態 墨付 点数

8 文太郎外出指留置赦免につき一件写(後欠) 切続紙 1

(弘化4年)未5月朔日

・伊藤主馬(寺社奉行)↓中村弥次郎

・↓松平玄蕃等

9 文太郎外出指留置御免につき申渡書写 切紙 1

↓松平玄蕃等 (弘化4年)

10 中村民作弟外与次郎徴兵免役につき達書 罫紙 1

明治16年10月8日

鹿島郡長加藤鑽二↓藤橋村等戸長役場

(添書)10月9日 藤橋役場(印)↓中村民作

11 父子卿病気につき帰省願 明治18年4月 切紙 1

會計部第六科管外四等工中村外与次郎↓會計部第六科長改

田貞□

III 学校等

31 明倫堂・孝友堂

1 文太郎、学校入校許可申渡書 切続紙 1

(天保2年)10月20日

天野権左衛門(学校方御用)↓中村弥次郎(敬忠)

2 都講初見式につき上下着用にて学校へ出頭申付書

(天保2年)10月21日 切封

天野権左衛門↓中村文太郎(豫)

3 明倫堂坐順

天保2年〜9年

①天保2年11月〜4年2月

②4年6月〜5年11月

③6年2・6月

④6年8・11月

⑤9年

中村文太郎

天野権左衛門↓中村文太郎

古屋甚兵衛(学校方御用)↓中村文太郎

大田小助(経武館督学)↓中村文太郎

講義録・来客簿等諸覚

書籍出納簿

立軒 ①「借用」天保11年より

②「蔵」弘化4年晚秋改

或問禘之説(論語)云々之章講義録

丹羽弟次郎 謹講

授業出席簿

孝友堂

起止簿(「史記・漢書」等素読記録)

素読等人々名書

(天保13年)壬寅秋7月〜卯正月

(明治2年)巳2月〜12月

三等文学教師加り任命書

明倫堂(明治初年)

西校(明治初年)

明倫堂(明治初年)

横小帳 5

26丁・25丁

10丁・11丁

11丁

切封

4月13日

切紙

切続紙

2月17日

切封

10月27日

横帳

28丁

横帳

9丁

11丁

袋綴

3丁

長帳

8丁

横帳

27丁

長帳

12丁

切紙

巳8月

1

- 学政寮↓中村知左衛門(豫)
- 2 御用につき藩庁内学校方へ出頭申付書 切紙 1
 学校↓中村知左衛門 (明治2年) 11月29日
- 3 漢学助教任命辞令 切続紙 1
 大参事↓中村知左衛門 (明治2年) 11月29日
- 4 漢学助教拜命につき届下書 (明治2年) 11月30日 切紙 1
 中村知左衛門↓土族長御中
- 5 嫡子民之助義御用につき学政寮へ出頭申付書 切封 1
 太田勘左衛門↓中村知左衛門 7月9日
- 6 挹注館漢学御用兼帯任命書 切続紙 1
 (明治3年) 庚午7月晦日
 学政所↓山岸藩掌・中村知左衛門
- 7 藩庁申渡につき添状 切紙 1
 (明治3年) 庚午閏10月7日
 学校↓中村知左衛門
- 8 文学副教師解職辞令 切続紙 1
 (明治3年) 庚午閏10月7日
 金沢藩↓中村知左衛門
- 9 御用につき学校へ出頭申付書 切紙 1
 (明治3年) 庚午閏10月18日
 学校↓中村知左衛門
- 10 学校掛使部任命辞令 切続紙 1
 (明治3年) 庚午閏10月
 金沢藩↓中村知左衛門
- 11 学政一新、中学東校にて与楽宴開催につき案内書 切続紙 1
 学校掛↓ (明治3年) 11月
- 12 与楽宴開催につき御用申渡書 切封 1
 (明治3年) 12月3日
- 13 金沢藩中学西校規則 (明治3年) 庚午11月 袋綴 11丁 1
 学校記録掛↓寺西啓太郎・中村知左衛門
- 14 辞令御渡につき学校へ出頭申付書 切封 1
 (明治3年) 12月28日
 戸田清六郎↓中村知左衛門
- 15 中学西校寄宿生掛兼務辞令 (明治3年) 庚午12月 切紙 1
 学校↓学校掛出仕分課蔵書懸り中村知左衛門
- 16 御用につき学校掛へ出頭申付書 切続紙 1
 学校掛↓中村知左 7月9日
- 17 文学四等教師加人任命辞令 (明治4年) 辛未7月 切続紙 1
 金沢藩↓中村知左
- 18 分課紀伝掛任命辞令 (明治4年) 辛未7月 切紙 1
 学校↓中村知左
- 19 学校在勤につき官禄支給辞令 切紙 1
 金沢県庁↓中村知左 (明治4年) 辛未10月
- 20 湯治願 切紙 1
 西校文学四等教師加り中村知左(花押)↓金沢県庁(印)学校
 (明治4年) 辛未10月
- 21 文学四等教師加人解職辞令 切紙 1
 金沢県↓中村知左 (明治4年) 辛未10月8日

33 鹿島郡小学校

- 1 御用につき所口支庁へ出頭申付書 切続紙 1
 (明治6年) 癸酉1月9日
 第二区会所(印)↓中村豫卿

III 学校等(33 鹿島郡小学校) IV 学芸(41 学問・武艺)

番号	標 題	年 月 日	型 態	付 点 数
2	能登国第二区区学校読書教授任命辞令 典事↓中村豫卿	明治6年1月10日	切紙	1
3	八幡小学校任命辞令 「学校係印」(印)↓中村豫卿	明治6年7月23日	切紙	1
4	学資金献納につき感謝状 石川県↓小学校四等出仕中村豫卿	明治7年6月18日	切紙	1
5	七尾小学校へ転任辞令 石川県庶務課↓中村豫卿	明治8年2月14日	切紙	1
6	学資金献納につき感謝状 石川県↓五等訓導補中村豫卿	明治10年8月24日	切紙	1
7	五等訓導補解職辞令 石川県↓中村豫卿	明治11年5月30日	切紙	1
8	前田斉泰より学資金附与につき廻達依頼写 大橋永学↓鹿島郡各町村居住旧金沢御藩士族御中 〔奥書①〕明治11年12月 大野木克正・安武就義↓旧御藩士族御中 〔奥書②〕明治11年10月 前田斉泰↓旧藩士族中	明治12年1月11日	罫紙綴2丁	1
9	優等表彰状 有成小学校(印「有成小学校印」)↓中村かしく	明治15年8月5日	切紙	1
10	鹿島郡七尾小学校五等訓導辞令 石川県大書記官従六位勲五等園田安賢↓中村民作	明治15年12月12日	一紙	1
11	中村民作履歴書 石川県大書記官従六位勲五等園田安賢↓中村民作	(明治16年)3月	罫紙	1
12	鹿島郡尋常科豊田小学校校長兼訓導辞令 石川県↓中村民作	明治20年4月1日	一紙	1
13	八等俸給辞令 石川県↓校長兼訓導中村民作	明治20年4月1日	一紙	1
14	七等俸給辞令 石川県↓訓導中村民作	明治20年10月18日	一紙	1
15	鹿島小学校建築費寄附につき感謝状 石川県知事従四位勲三等岩村高俊↓石川県士族中村民作	明治22年6月1日	一紙	1
16	小学校教員免許状 石川県知事正五位勲三等三間正弘↓石川県師範学校卒業生 石川県士族中村民作	明治28年5月8日	一紙	1
17	年功加俸証書 石川県知事正五位勲二等三間正弘↓鹿島郡三室尋常小学校訓導中村民作	明治29年10月1日	一紙	1
18	鹿島郡外尋常小学校訓導辞令 石川県知事正五位勲二等三間正弘↓鹿島郡三室尋常小学校訓導中村民作	明治30年4月16日	一紙	1
19	八級下俸給辞令 石川県↓鹿島郡三室尋常小学校訓導中村民作	明治31年4月6日	一紙	1
20	八級上俸給辞令 石川県↓鹿島郡外尋常小学校訓導中村民作	明治32年4月18日	一紙	1
21	中村禎雄二等漕手任命書 石川県立第三中学校之余会長奥田頼太郎(印)↓第五年級生徒 中村禎雄	明治35年9月11日	一紙	1
22	校費受払簿 子惇氏重民(中村民作)	明治45・大正2・3年度	横帳	28丁 1

- 23 複式教授法講習終了証明書 大正元年8月17日 一紙 1
石川県↓鹿島郡清水平尋常小学校訓導兼校長中村民作
- 24 年功加俸年額金支給証書 大正2年9月30日 罫紙 1
石川県↓鹿島郡清水平尋常小学校訓導中村民作
- 25 起稿冊(校費予算等) 大正2・3年度 罫紙綴17丁 1
静観楼(中村民作)
- 26 年功加俸年額金支給証書 大正3年9月30日 罫紙 1
石川県↓鹿島郡清水平尋常小学校訓導中村民作
- 27 年功加俸年額金支給証書 大正4年5月25日 罫紙 1
石川県↓鹿島郡越路尋常高等小学校訓導中村民作
- 28 退職辞令 大正4年7月27日 一紙 1
石川県↓鹿島郡越路尋常高等小学校訓導中村民作
- 29 八級下俸給辞令 大正4年7月27日 罫紙 1
石川県↓鹿島郡越路尋常高等小学校訓導中村民作
- 30 教員退隠料証書および但書写 大正4年9月22日 一紙 2
石川県知事正五位勲四等太田政弘・石川県内務部長従五位勲五等夏秋十郎↓元石川県鹿島郡越路尋常高等小学校訓導中村民作
- 31 教員退隠料請求書下書 大正4年10月20日 罫紙 2
中村民作↓石川県知事太田政弘
- 32 退隠料請求につき委任換書類提出依頼および委任換届 大正5年12月14日 罫紙 2
①石川県庁学□係↓中村民作 ②中村民作↓
- 33 色図釈 全 年未詳 袋綴 6丁 1
中村民作所持

IV 学芸

41 学問・武芸

学問

- 1 検地積 全 文化10年写 袋綴 7丁 1
中村敬忠 写「浅尾より借用」
- 2 売買之算法 全 文化10年写 袋綴 13丁 1
中村敬忠 写「浅尾より借用」
- 3 数あそび 写 年未詳 袋綴 135丁 1
明君家訓 全 享和3年写 袋綴 30丁 1
中村平養昌写 卷1・2
- 4 木村長門守書状写 (元和元年)4月6日 切続紙 1
木村長門守(重成)↓猪飼野左馬之助
- 5 法眼鬼一書状写 寿永3年2月日 一紙 1
法眼鬼一↓源九郎
- 6 水戸前黄門御歌写 年未詳 切紙 1
地毬全図略説 寛政(5年)癸丑正月 中本 27丁 1
東都 江漢司馬峻 春波楼蔵刻 (木版)
- 7 蒙求拾遺 卷中(前後欠) 宝曆2年版 大本 71丁 1
大江広保 (木版)
- 8 淡海抜粹 天地 写 年未詳 袋綴 4丁 1
通義 卷之一 写 年未詳 袋綴 41丁 1
頼囊子成(頼山陽)著 [裏表紙]「機在於言路」
- 9 日本外史箋釈 年未詳 小本(木活) 1
国史纂論 十卷 弘化2年 中本 76丁 5
山縣半七禎著 長門明倫館蔵版 (木版)

番号	標 題	年 月 日	型 態	墨 付 点 数
14	近古史談 卷一〜四 著 東奥 大槻清崇(磐溪)	慶応4年	小本 (木版)	135丁1
15	大日本史輯解 上下 跋 乙卯(安政2)夏六月 楷堂学人 木村毅 金沢出羽町 岡島正直 著 竹月堂藏版 序 藤田維正	明治14年7月	小本 (木版)	43丁2 48丁
16	大日本史目次 ①第1〜105巻 ②第106〜243巻	年未詳	罫紙	68丁2 51丁
17	稼堂叢書 黒本植 稼堂叢書刊行会	昭和6・7年	書冊(印刷)	8
18	家訓集 豫脚識 ①稼堂叢書総目録 ②③本辞古事記評釈 ④神楽評註・後百人一首二種・催馬楽標註・ 自讃歌註・万葉百首短評・剛修君臣歌 ⑤勢語評註・松垣嫗家集考・三部抄評釈 ⑥⑦⑧三州遺事	明治22年1月20日	罫紙綴	11丁1
19	「真修養と新活動」他書誌解題等 子惇(中村民作) [表紙]「書見紅紙代」	大正6年	横帳	5丁1
20	武 芸 天狗芸術論 全 (写) 享保13年 伏斎栲山 述 卷1〜4	年未詳	袋綴	46丁1
21	武道初心書 堀自謙 中村武平(義昌) 写	安永2年3月	横帳	13丁1
22	甲陽軍鑑城取奥秘免状 有沢才右衛門↓中村弥次郎(義昌)	寛政2年4月28日	折紙 包有	1
23	孫子十三篇 享保4年有沢武貞改正点 中村倫連敬忠写	文化7年写 弘化2年3月	袋綴	34丁1
24	乘馬作法拔書 今村正堅	弘化2年3月	横帳	12丁1
25	精進太刀伝授之時禁戒法 笑笑流活華 うい手引 十一世家元 笑笑翁一水	年未詳	切続紙 袋綴 (木版)	1 6丁1
26	能目録 文化二五年改 中村文太郎(豫)所持	天保9年6月写置	折紙	1
27	橋弁慶など能番組 於：(金沢)博物館御舞台	明治18年11月14日	切紙(木版)	1
28	贈写謡曲本につき大島多計比古等の事 七十翁中村予卿併書	明治25年10月	切紙(罫紙)	1
29	鶉祭(謡曲) 紫式部石山遊 投扇競 京都 けうゑや製 電話式八八番	年未詳	袋綴 一枚(木版)	13丁1 1
30	随筆 附右権中将公正和歌 河波有道和歌二首 櫻園河波有道	年未詳	切紙 半切	1 1
31	土田守直和歌二首 ①石蘭亭主人を祝いて	年未詳	一紙	2

②長氏寓居の牡丹をみて 守直

4 中村家百五十年贈答歌(和歌) 年未詳

真興

5 土田君賀筵にて詠歌(和歌) 年未詳

袖陽(松田久平)

6 翠外・春水俳句二首 年未詳

翠外(横川文蔵) 春水(横川仲蔵)

7 源氏物語・越前万歳東海道五十三継写 年未詳

赤城義臣伝(四十六臣伝) 叙々十四 大正5年

深淵子武矩識 享保四年版慶応四年補刻

①叙々二 ②三々五 ③六々八

④九々十一 ⑤十二々十四

9 安保字具佐 年未詳

立軒 中邨豫卿述 骨董戯筆集

10 山海奇事録 (明治31年)

北鼎(横川仲蔵)(横川巴人朱注)「怡毛父北鼎ノ東上シ居シトキ也」

11 山海奇事談 年未詳

北鼎

43 宗教

1 童蒙日本魂 全 文政13年刊

出雲守従五位下平(葛原)秀藤

2 玉擲 一々八卷 年未詳

平田篤胤著 [序]嘉永3年3月神祇伯資敬王・

天保2年6月18日本居太平伊吹廼屋先生講本

(九・十卷欠)

3 首書増補 臨濟慧照禪師録 元禄12年6月吉日 大本 96丁 1

花洛書林 調進所 書林松柏堂出雲寺文次郎 (木版)

4 永平二世 光明蔵三昧 全 明和3年版 大本 23丁 1

弘安元年 孤雲懷莽 (木版)

5 艸山要路会註 全 天明2年6月 大本 48丁 1

延宝4年成 艸山沙門日燈叙 天明2年6月艸山瑞光寺識

6 冠註永平元禪師清規 乾・坤 寛政6年春 大本 59丁 2

道元撰 永平精舎蔵版 原版 寛文7年夏 (木版)

7 浄土要略鈔 全 文化9年11月 大本 49丁 1

京師書林 柳枝軒発行 小川多左衛門刻 (木版)

8 標註八宗綱要 全 明治18年4月22日御届 大本 58丁 1

東大寺凝然大徳述 黒田真洞標註・編輯 (木版)

9 翻刻 天台四教儀 完 明治18年7月25日 大本 44丁 1

沙門諦観撰 翻刻人西村九郎右衛門 発行所護法館 (木版)

10 冠註一鹹味 全 明治19年4月15日 大本 47丁 1

木宮恵満編輯 京都書林出雲寺蔵 (木版)

[序]伊達春山・山岡鉄舟

・坐禅儀 ・十牛図 ・信心銘 ・証道歌

番号	標題	年月日	形態	墨付 点数
11	増冠宏智禪師頌古 乾・坤	明治19年6月10日刻成	大本 (木版)	70丁 2
12	大乘起信論科註 全	編輯人 古田梵仙 出版人 矢野平兵衛 明治27年6月20日	大本 (印)「中村禎雄」	57丁 1
13	夢中問答 天・地・人(畵人)	大正11年11月	大本(木版)	51丁・52丁 3
14	天徳院蔵版 鐵笛倒吹	京都市貝葉書院 正保4年5月靈龜山天竜寺蔵版 昭和3年7月10日	書冊 (印刷)	49丁 101丁 1
15	白隠法語集 全	発行 池善書店 明治8年「増補鐵笛倒吹」(村上玄楼著述平 風外著語 細注者諸嶽奕堂蔵版) (印)「中村」・「石蘭書屋蔵」	書冊 (印刷)	220頁 1
1	題孔子真 写	年未詳	切紙	1
2	愛菊説	(享保5年)庚子5月日本国夷人 物茂卿(荻生徂徠) 享保17年	続紙	1
3	滑川談	森十左衛門妻(多賀信濃直方女 述作) 寛政6年写	袋綴	61丁 1
4	事始聞書 全	寛政3年 塚田虎(多門)述 東都雄風館蔵 文化元年写	中村養昌写 袋綴	88丁 1
5	麟経中以字訓解 全	貝原好古編「中華事始」抜書 中村養昌 写 天保3年孟春 謙山西坂衷識 天保9年写	袋綴	11丁 1
6	信州にて狼の害につき漢詩写	天保9年孟春写之 丹羽政之 泉令岡本茂	切続紙	1
7	河三亥漢詩(写)	天保9年冬 河三亥(市河米庵)	一紙	1
8	観蓮説	中村徳胤 (天)保13年6月25日	一紙	1
9	佐々主殿論・上杉謙信論	中村徳胤 弘化3年8月	袋綴	4丁 1
10	紀事	中村豫 朱筆 永山平 10月	一紙	1
11	紀事稿	中村豫 「希顔堂席上」	袋綴	3丁 1
12	漢詩 二十四孝	中村民之助再拜 明治3年9月19日より 明治9年10月3日写	袋綴	7丁 1
13	読史雜詠 乾・坤	三元本木村鈔吉郎之冊子也 著 青山延寿 甲府書林 内藤伝右衛門 明治11年12月	小本 (印刷)	47丁 2
14	唐詩七絶三十六家選	序 慶応元年9月 昌平学儒員 塩谷世弘 題辞 安政4年 愚兄延光	原稿用紙	1
15	詠詩題桶公	中村豫編撰 年未詳	切紙	33枚 1

44 漢学(写・撰・漢籍等)

- 16 催詩楼記(大槻磐溪)等写 年未詳 野紙綴3丁1
- 17 張良四面楚歌写 年未詳 野紙 1丁1
- 18 家康公駿府在城避雷之事他説話等 年未詳 袋綴 9丁1
- 19 武人座像画讃 年未詳 切紙 1
- 20 分類補註李大白詩 二十五卷 首卷 大本(木版) 11
- 21 四書大全説約合参正解 元禄10年1月吉日 大本(木版) 30
- 22 改正音訓 天明7年正月 大本(木版) 9
- 23 陸宣公全集註 二十四卷 寛政2年4月28日 大本(木版) 10
- 24 尺木堂綱鑑易知録 九十二卷 首卷 年未詳 中本(木版) 48
- 25 李忠定公集鈔 卷一奏議 卷二雜文詩 大本 69丁2
- 26 魏叔子文選要 上中下 文久4年正月新刻 中本 48丁3
- 27 統魏叔子文選要 上中下 明治3年 中本 51丁3
- 28 宋李旴江文抄 富国策・強兵策・安民策 慶応2年11月刻成 大本 22丁3
- 29 訂正資治通鑑 杉原心齋 校閱 江戸書林 文苑閣鱸氏翻彫 明治17年4月刻成 大本(木版) 7
- 30 朱子静坐説 全 山名留三郎 訓点 鳳文館 蔵梓(第8、70冊欠) 大正4年秋 大本 48丁1
- 45 漢詩 柳川剛義 輯 (京都)聖華房 (印)「中村」・「石蘭書屋蔵」(享保2年板の再版) 中本(木版)
- 1 「奉賡南涯雅友」・「秋日遊山」 年未詳 横帳断簡 1丁1
- 2 「遊瑞雲禪龕、聴松声有感」 年未詳 切紙 1
- 3 白溪・高里への答詩 初秋 一紙 1
- 4 紹成堂詩稿 立軒中村豫卿 明治16年3月16日 野紙綴18丁1
- 5 紹成堂詩鈔 著 中村豫卿 編 中村民作 校 禎雄 大正14年11月21日 中本 17丁1
- 6 古戰場等につき漢詩(前欠) 立軒豫卿稿 朱筆藤田維正 明治18年9月22日 切紙 1
- 7 中村立軒漢詩集写 中村立軒 年未詳 野紙綴14丁1
- 1 平安城書林天王寺屋市郎兵衛好延 蔵梓 1・2大学 3・5中庸 6・15論語 16・30孟子
- 後藤 点 平安書林 北村四郎兵衛
- ①②詩経 上・下 ③④書経 上・下
- ⑤春秋 ⑥⑦礼記 一・四
- 浪花 篠崎概 校 (6・7巻欠)
- 頼山陽 選 頼氏蔵板 文久3年6月 (木版) 47丁
- 魏禧永叔 著 桑原忱有終 選 (木版) 48丁3
- 浪華書林 岡田群玉堂 45丁・49丁
- 桑原忱有終 選 (木版) 53丁

番号	標 題	年 月 日	型 態	付 墨 点 数
8	拾綴集 石蘭亭子編	明治16年1月23日	袋綴	59丁 1
9	雑詩別集 (中村豫卿編)・「同僚篇」・「友人篇」・「近人篇」・「古人篇」	年未詳	袋綴	40丁 1
10	鶏肋集 桃林庵主	大正5(昭和4年)	袋綴	35丁 1
11	桃軒詩鈔 朱筆 藤田維正・豊島毅・永山平太・瀬尾貫・山田長宣	昭和29年11月23日	一枚(印刷)	1
12	中村立軒翁伝 並 古詩三篇 中村民作 (序)中村禎雄	昭和35年7月吉祥日	一枚(印刷)	1
13	七言絶句唱酬 嫡孫 中村禎雄	年未詳	切続紙	1
14	「立軒老兄久在登抄」 善(大島善太郎 印「善」)	(明治)9年4月3日	切続紙	1
15	「菅公祀前観梅」 善	年未詳	一紙	1
16	「慶中村雅兄厦屋落成」 河波有道「未定稿」	年未詳	一紙	1
17	「妙観院暮鐘」 櫻園(河波有道)	年未詳	切紙	1
18	「立軒君之芳韻兼寄」 佐藤暢(花押)	年未詳	切紙	1
19	五言絶句二点 沢・遇徳	年未詳	切紙	1
20	「初秋十一夜訪立軒君不遇帰」 関正辞	初秋	切紙	1
21	「初秋十一夜訪軒君不遇帰」 西坂猪之助	初秋	切紙	1
22	「恭呈 立軒君閣下」 丹信(印) 丹羽履信↓立軒賢兄	仲春(2月)23日	切紙	1
23	「雪中早梅」二点 袖陽(松田久平)	①(文久元)辛酉新年	切紙	2
24	詠庭樹花 中村先生宅 袖陽	(明治22)己丑年4月18日	切紙	1
25	「至日小集」・「雪中早梅」 (袖陽)	年未詳	切紙	1
26	「岡崎君寓居俄二十八字」等 袖陽	年未詳	切紙	1
27	「冬至」 袖陽	年未詳	切紙	1
28	「帰展詩稿」・「熱海客作」等漢詩集 山田新川・豊島洞齋・桃軒重民 他	年未詳	罫紙綴30丁	1

46 書 画

1	書画酬和(二点一軸装) ①中村立軒 大島稼亭 弘化3年正月3日 ②立軒・列樹・福寿卦・孝次	卷子	1
2	青葉笛歌 立軒豫卿(印「中村豫卿」子順氏) 〔箱書〕「立軒先生青葉笛歌 桂香園石陰書屋蔵」	軸装	1

- | | | | | |
|----|--|--------------|-----------|---|
| 3 | 孫誕生等につき詠詩
立軒予卿 併書 | 明治16年8月 | 軸装 | 1 |
| 4 | 不用紙墨習字捷徑
六十四年河波有道 | (明治19年) 4月 | 続紙 | 1 |
| 5 | 「石蘭居」扁額
□□(印「木崎孝印」) ↓ 中郷先生 | 年未詳 | 額装 | 1 |
| 6 | 尚齋書 題「立軒先生之詩」
尚齋録(印「風流消」) | 年未詳 | 半切 | 1 |
| 7 | 西江書 題「歲除雜感」
西江老 | 年未詳 | 半切 | 1 |
| 8 | 西江書 題「七尾紀事豫卿中村君清嘯」
西江漁史(印) | 年未詳 | 全紙聯落 | 1 |
| 9 | 杉村精一書
青溪 「団葉迄歲慰心灰・」 | (明治16) 癸未年元日 | 半切 | 1 |
| 10 | 杉村精一書
青溪 「諫柳平蕪落鳥飛・」 | 年未詳 | 63×110cm | 1 |
| 11 | 杉村精一書 題「新年」
青溪 | 年未詳 | 33×70cm | 1 |
| 12 | 杉村精一書 題「夏日偶来」
青溪 | 年未詳 | 半紙 | 1 |
| 13 | 長連孝書 題「恭寿立軒先生六十初度」
淡所連孝 (明治16年) | 半切 | 半切 | 1 |
| 14 | 「秋圃先生新居に集 席上」五占 年未詳
長連孝淡所・永野正路愛水・赤川一翠・秋圃謙 | 32×81cm | 1 | 1 |
| 15 | 松田久平書 題「寿立軒中村先生六十初度」
袖陽松田(印) 明治16年 | 全紙 | 1 | 5 |
| 16 | 松田久平書 題「於冬夜石蘭亭」
袖陽 | 年未詳 | 18×86cm | 1 |
| 17 | 松田久平書 題「今茲聞菅翁梅樹移他処説有感」
袖陽 | 年未詳 | 21×138cm | 1 |
| 18 | 松田久平書 題「宣居」
袖陽「青溪・立軒二先生清鑑乞和」 | 年未詳 | 半切 | 1 |
| 19 | 書断簡(下欠)
中村豫卿書 | 年未詳 | 55×(29)cm | 1 |
| 20 | 立軒豫卿(印「中村豫卿」)「子順氏」 | 明治26年元旦 | 軸装 | 1 |

V 藩政

51 藩主家

- | | | | | |
|---|--|----------------|-----|-------|
| 1 | 謙徳院四十九日忌につき讚及び捧歌
百合 | 宝曆3年中夏 | 切続紙 | 1 |
| 2 | 高徳院様二百回忌法事拝礼願書
中村知左衛門(養昌) ↓ 前田修理・前田内蔵太・品川主殿(寺社奉行) | (寛政10) 戊午正月21日 | 一紙 | 1 |
| 3 | 拝礼願につき達書添状
鈴木彦大夫・植松平左衛門 ↓ 中村知左衛門 | 正月23日 | 切紙 | 1 |
| 4 | 亀万千(齊広)様家督・婚姻・入国等年月日書上
年未詳 | 切続紙 | 1 | 1 |
| 5 | 前田家系譜
中村平養昌写 | 文化2年2月 | 袋綴 | 28丁 1 |

番号	標題	年月日	型態	付点数
6	御日柄(將軍・藩主一族等院号・忌日書上) 養昌	年未詳	横帳	12丁 1
7	藩主等忌日・院号・菩提寺覚書 (高德院・金龍院)		切紙	1
52 藩政				
1	由井正雪自害穿鑿のため箱根・碓井関不通につき達書 (利常公御書写)	(慶安4年)7月28日	切続紙	1
2	禁中并公家中諸法度写	寛文4年6月3日	切続紙	1
3	朝鮮国訳官使遭難につき申上書 (元禄16年)8月13日		切続紙	1
4	御定書拔書	年未詳	袋綴	56丁 1
5	喧嘩捌之一卷	安永7年6月写	横小帳	10丁 1
6	天明飢饉につき御領国凶作引免一卷 中村	天明3年	横帳	13丁 1
7	微妙公逝去、殉死者竹田市三郎辞世句等 年未詳		切紙	1
8	近藤岩五郎、薩摩藩士殺害につき書状写	慶応2年9月14日	切続紙	1
9	近藤岩五郎信成↓父上様 近藤岩五郎遺言并辞世写 近藤岩五郎信成	慶応2年9月14日	切続紙	1
10	近藤岩五郎長崎にて割腹につき加増等申渡写 (近藤兵作・近藤斤四郎) (慶応2年)丙寅10月13日		切続紙	1
11	大野木仲三郎辞世句写 大野木仲三郎克敏	年未詳	切続紙	1
12	殉難諸士辞世句写 福岡惣助義比・小川幸三忠篤・青木新三郎秀枝 (裏書)「殉難諸士」	年未詳	続紙	1
13	藩治職制表	年未詳	切続紙	1
53 記録				
1	可観小説 一・二(写)	年未詳	袋綴	60丁 2
2	加陽武士町細見図 正徳5年 俊新齋主人青礼幹謹識	寛政元年写	袋綴	45丁 1
3	下学老談 上・下 享保19年 桃水軒有沢平武貞 中村氏平養昌写	文化12年写	袋綴	47丁 1
4	松梅語園 上中下合本 春求信精 述	年未詳	袋綴	91丁 1
5	大窪大工頭彰碑銘文写 富山県下射水郡長坂村神官中講義上水友之撰	(明治19年建立)	切紙	1

中村石蘭亭文庫解説

概要

中村石蘭亭文庫は、藩政期に知行百石を拝領した明組与力中村家の文書である。史料総数は五七一件七八五五点、明和期から明治期の史料がその主体を占める。

中村家は、由緒帳等によれば、柴田勝家に仕えた与左衛門武全を祖とし、その嫡子九八郎は初代藩主利家に、二男弥五左衛門能直は二代利長に召出された。能直は兄九八郎の死後、兄の知行を合わせ三百石を拝領している。その後、能直の二男三左衛門が分家し、次郎右衛門正吉・正住と続く。正住の二男庄兵衛政勝は万治2年（一六五九）五代藩主綱紀に、堀与左衛門与力として召出され百石拝領している。政勝はその後青山将監の与力となり、元禄元年（一六八八）には明組与力となっている。以後中村家は知左衛門・喜大夫直之・知左衛門養昌・弥次郎敬忠・知左衛門豫と藩政期末まで知行百石の明組与力家として続いている。与力としての勤方の一方、知左衛門豫は藩校明倫堂や私塾孝友堂に学び学問を追究していった。なお、宗旨は日蓮宗、菩提寺は卯辰本光寺である。また、定紋は剣片喰で、替紋には祇園守などがある。

明治以降は、知左衛門豫こと中村豫卿は明治2年明倫堂の漢学助教に任命され、明治5年（一八七二）七尾へ転居後も七尾小学校で教鞭をとった。その後以後民作・禎雄も教育に従事し、中村家は昭和に至るまで教育者の家系であった。

なお、文庫名とした「石蘭亭」については、豫卿が主に使用しているが、民作・禎雄も「石蘭」を使用しており、その三代の居所の名称である。

また、本目録における差出および宛名の後に（寺社奉行）と記した箇所がある。その役職については本来「与力裁許」とすべきであるが、寺社奉行が兼帯していることからその役職を記した。なお、本解説中の史料名の後の（ ）内に記した数字群は史料番号であり、38から始まる数字群は本文庫である中村石蘭亭文庫の史料であり、文庫名を省いている。また、所蔵を明記していない場合は近世史料館所蔵である。

分類番号	I 役儀 (103件 124点)	件数	点数
38.11	養昌以前	7	17
38.12	養昌	14	16
38.13	敬忠	20	21
38.14	豫	51	59
38.15	起請文前書	11	11
	II 家 (242件 279点)		
38.21	由緒・家系・戸籍・判印鑑	32	35
38.22	知行	19	20
38.23	遺書・相続・養子・縁組	30	30
38.24	儀礼	21	21
38.25	屋敷・住所	7	7
38.26	家計	35	57
38.27	日記・諸事留・雑録等	9	19
38.28	書状・書簡	78	79
38.29	事件・その他	11	11
	III 学校等 (66件 74点)		
38.31	明倫堂・孝友堂	12	17
38.32	明倫堂～西校(明治初年)	21	21
38.33	鹿島郡小学校	33	36
	IV 学芸 (135件 282点)		
38.41	学問・武芸	31	44
38.42	文学	11	16
38.43	宗教	15	26
38.44	漢学	30	147
38.45	漢詩	28	29
38.46	書画	20	20
	V 藩政 (25件 26点)		
38.51	藩主家	7	7
38.52	藩政	13	13
38.53	記録	5	6
	計	571	785

中村石蘭亭文庫 分類と点数

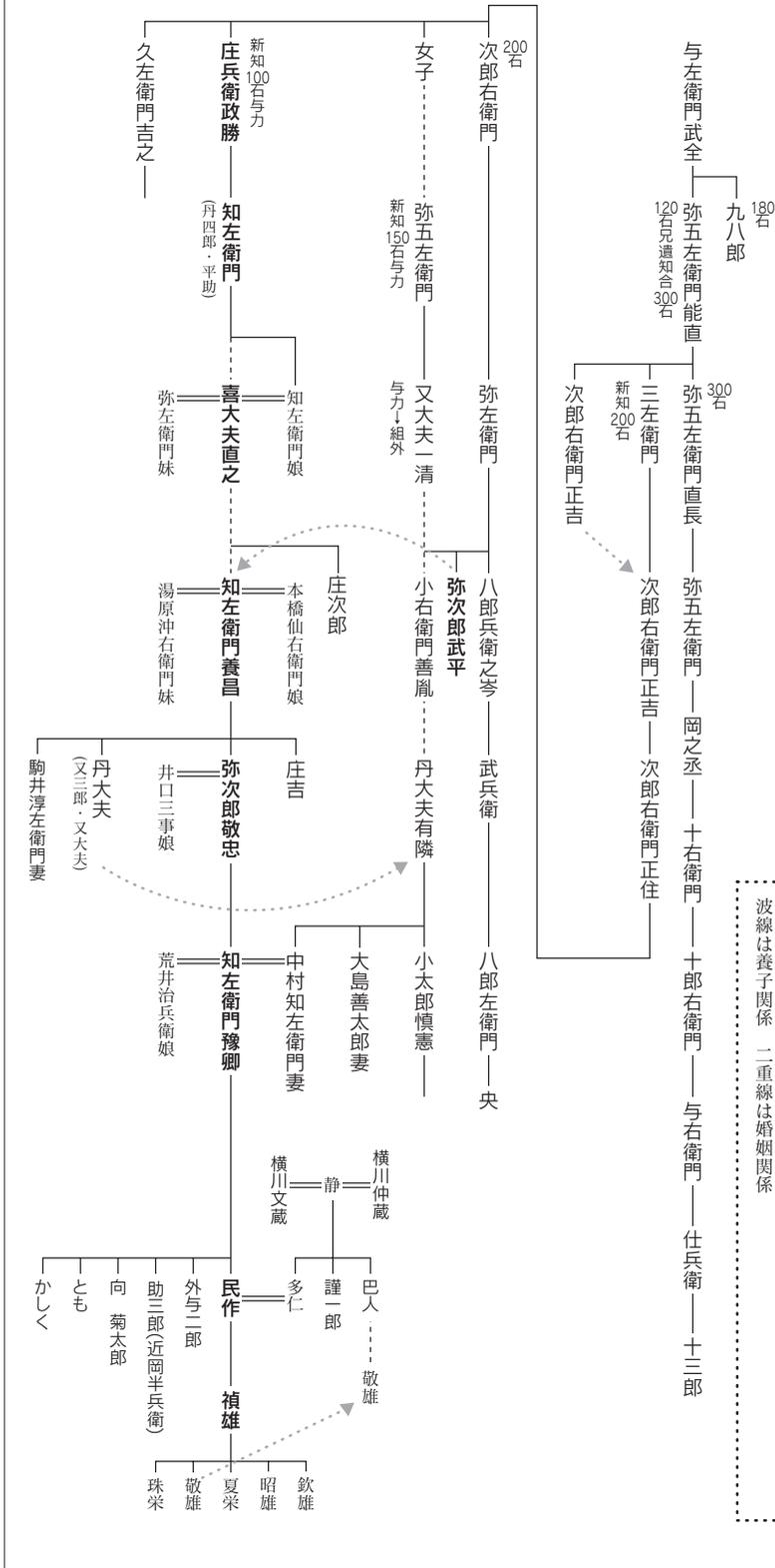
代々

庄兵衛政勝は元禄12年(一六九九)に没した。嫡男知左衛門は、幼名丹四郎、後平助、実名は不明で、宝永3年(一七〇六)相続、元文3年(一七三三)に没している。この知左衛門の記した史料は遺書(38・23

1・2) 2点確認できるのみである。喜大夫直之は、人持組前田主殿助家の陪臣田中判大夫の子で、享保19年(一七三四)知左衛門の娘へ婿養子となり、元文4年相続し、寛保3年(一七四三)に没している。中村弥左衛門妹との縁組願(38・23・16)があるが、直之が関係した

中村家略系図

日蓮宗 卯辰本光寺



史料は、由緒帳と遺書の他は「喜太夫倅庄兵衛、家来手討等留書」(38・29・1)のみである。

養昌は、寛延3年(二七五〇)中村弥左衛門の二男として生まれ、宝暦11年(二七六一)中村喜大夫の末期養子となり、明和5年(二七六八)喜大夫家を継ぎ明組与力として召出された。その時の通名は弥次郎、実名は武平であった。天明元年(二七八二)5月実名を武平から貞廉に改め、天明6年5月更に養昌と改める。寛政3年(二七九二)8月通名を弥次郎から祖父と同じ知左衛門に改め、文化3年(二八〇六)に没している。弥次郎敬忠は、養昌の嫡子で文化3年に明組与力として召出され相続し、嘉永2年(二八四九)に没している。改名の記録はないが、「孫子十三篇」の写(38・41・23)では字名は倫連であることがわかる。

なお、知左衛門から弥次郎敬忠までは、参勤交代の御供や江戸表御用、姫君婚礼に伴う御用等による江戸詰・往來の役儀が多い。

弥次郎敬忠の嫡男知左衛門豫は、通名は文太郎、嘉永3年に相続し、嘉永5年10月通名を知左衛門に改め、明治3年(二八七〇)の史料まで通名として記されている。明治4・5年には知左とされている。実名については明治3年の由緒帳(38・21・11)では豫、5年の由緒帳(当館加越能文庫)でも豫であるが、天保11年(二八四〇)の実名書(38・24・9)では豫卿とあり、字名は子順と記されている。号は立軒で、遅くとも弘化3年(一八四六)には使用している。他に石蘭亭主人、紹成堂主人とも記すが、紹成堂については、明治5年七尾に転居後自宅で営んだ漢学塾の名称である。また、この豫卿関係の史料が本文庫の中で最も多い。藩政期には公事場付与力等を勤める等役儀関係史料の他に、明倫堂で漢学を教えるなど、学校・学芸関係に伴う史料も多い。明治26年71歳で没している。

豫卿の嫡子民作は、幼名民之助で、明治3年民作と改める。字名

は子惇、号は桃軒、桃林庵・静観楼なども用いる。大正4年(一九一五)まで鹿島郡の初等教育に従事し、昭和4年(一九一九)77歳で没している。民作の嫡子禎雄は、東京高等師範学校卒業後、各地の中学で教育に従事し、金沢第一中学の校長を最後に公職を退き、昭和51年92歳で没している。

以下分類に基づき、補足的に説明していく。

I 役儀

「11 養昌以前」の史料群は、庄兵衛以外は、系図や由緒帳では確認できない同苗別家の史料である。この点に関しては「中村養昌一代記」(38・27・1 以下「二代記」と略する。注1)の天明元年(二七八二)閏5月の記述に「元祖庄兵衛様一類附二冊并御一行御尋御請書并知左衛門様手跡撰之節御書出之小紙等得ル之事」と記され、養昌が寺社奉行役所の反古紙を調べ持ち出している。一類附二冊は天和3年(一六八三)と元禄3年(一六九〇)の「先祖由緒帳」(38・21・1・2)で、天明5年の養昌(弥次郎貞廉)の追記があり、はずれた付箋(38・12・3)のみも確認している。御一行御尋御請書は3「中村庄兵衛身上書」であろうか。その文中で御一行は所持していないと記している。中村六郎右衛門宛1「前田利常知行宛行状」の六郎右衛門については「中村六郎右衛門等六人忌日書上」(38・24・15)によると伴八矢与力で万治3年(二六六〇)没と記されているが他の系図等では確認できない。

「12 養昌」の史料8は、養昌が寛政10年(二七九八)から享和元年(二八〇二)まで江戸で御服御料紙裁許を勤め金沢へ戻った後、江戸会所から、会計的な引継ぎが済んだことを証した文書で、「江会」印が押されている。養昌の役儀については、ここでの個別史料の他に、「二代記」に詳しい。「13 敬忠」では、敬忠が参勤交代や姫君婚姻な

どで藩主家近辺での御用を多く勤めたことによる拝領目録がほとんどである。「14 豫卿」の史料26「公事場御用検使控」は、豫卿が公事場御用を務め、実際に本人が現場に検使として出向き報告した十数件の一件控である。「15 起請文前書」は名前や年号が記されておらず、役名も定まったものではないため、誰の起請文であるか明確ではない。由緒帳等に記された役名からでは、1は直之・養昌が共に勤めている「寺社奉行支配方取次御用」の起請文であろう。2から8は養昌で、2は「非人小屋裁許」、3は「御城方御用」、4・5は「買手方并直段聞御用」、6・7は「御参勤道中一宿下り御荷物裁許」、8は養昌と敬忠が勤めた「金沢廻り道橋破損修理裁許」「金沢廻道橋方御用」、9・10は敬忠で、9は「御台所御賄方御用」、10は「勇姫様御出府御道中御供」の起請文前書であろう。11は公事場関係の役儀と考えられるが、「公事場附御用」であれば、敬忠と豫卿が勤めている。

II 家

「21 由緒・家系・判印」では由緒帳が16点確認されている。16「豊島銭次郎先祖由緒并一類附帳」以外は中村家および縁戚関係の由緒帳である。最も早い時期の由緒帳は1の天和3年の史料で、庄兵衛が青山将監の与力となった時、2の元禄3年の史料は明組与力となった時に寺社奉行に提出したものと考えられる。その他、先代が亡くなった後(3)、実名を改めたとき(6)など様々な場面で由緒帳を作成したと考えられる。

なお、9の嘉永2年(二八四九)の由緒帳には二カ所に加筆がある。奥に「中村弥次郎様 青地左大夫・岡本三郎大夫 / 御由緒加筆之通、清帳番御判印二および不申、加筆之分為一集二当月中無間違御指出可被成候、以上 / 五月十七日」とあり、表紙には「嘉

永二年閏四月廿五日迄二先下帳二而可指出旨申来、調筆三田村半助二相頼指出又処加筆有之、五月中二可指出旨下二記載之通申来ル処、同日病死に付、中村弥次郎先祖由緒并一類付帳与標題シ、中村文太郎之判印二而清帳、同年八月朔日二指出又事」とある。つまりこの由緒帳は判印前の清帳であって、これを提出したところ、調筆を頼んだ三田村半助により加筆(本史料の朱書部分)があったので、もう一度清書した由緒帳と一緒に5月中に提出するよう伝えようとしたところ、本人が亡くなってしまい、「中村弥次郎先祖由緒并一類付帳」と題して、与力召出し前の嫡男文太郎の判印による清帳を8月1日に提出することを求めたのである。これによると、由緒帳を寺社奉行に提出する際、下帳もしくは判印以前の由緒帳が調筆を経て清書し提出されていることが確認できる。この由緒帳の下帳となったのは、8の文政12年(二八二九)6月の由緒帳で、天保10年(二八三九)8月の下帳にもなっている。なお、提出の理由については、由緒帳の名義と判印者が異なりながらも提出を求めていることから、中村家の事由による提出ではなく、定期的な「藩士把握のための戸籍調査」(注2)の可能性が考えられる。

家系に含めた21・22の書状は明治3年(二八七〇)の由緒帳に記載する姓、「源」か「平」かの確認のため中村与左衛門系の同族で示し合わせた書状であろう。

「22 知行」では、主に①算用場からの所附、②所附された村、③知行米を管理する蔵宿の史料をまとめた。①から中村家の知行百石は、加賀に30石、能登に70石に分け与えられ、それぞれの免率が、与力であるため「一歩劣り、35%と40%なので、実取納高は、10石5斗と28石、計38石5斗であった。②については所附された村からの史料2「知行所につき高・百姓仕分け申上書」をみる。

賞

草高

一、拾六石九斗三升五合

免六ツ弍歩

石川郡

四十万村

内

五石

百姓 武右衛門

五石

同 伊右衛門

六石九斗三升五合

同 七郎右衛門

右私共在所今般御知行所ニ就被仰付候、百姓上中下鬪取之上を以相極、百姓分書上申通相違無御座候、以上

文化四年五月

肝煎 三郎右衛門(印)

組合頭 市右衛門(印)

同 徳左衛門(印)

同 新左衛門(印)

同 久右衛門(印)

中村弥次郎様 御台所

右之通相違無御座候、以上

高尾村 茂八(印)

この史料は、文化4年(一八〇七)5月に算用場から中村家に所附された四十万村が、30石(10石5斗)分の百姓および高を決め、十村を経て中村家に報告したもので、16石9斗3升5合に免率62%を算出すると10石4斗9升9合7勺となりほぼ一致している。藩士の知行は、村だけではなく百姓およびそれぞれの高まで割り当てられていることがわかる。この仕分けられた百姓については中村家の年中行事等を記した「家事」^{38・24・21}の正月11日の記載に「地

知行所百姓共呼寄吉祝之事」とあり、料理名等が記されている。

なお、このような百姓の仕分けの事例としては寛文4年(一六六四)の史料「利波郡二日町村百姓わけ書上」(加越能文庫16・65・248)がある。また、複数の藩士の知行地である村で、藩士ごとに百姓および高を振り分けたことを示した史料としては、石川郡大河南端村の嘉永7年「御地頭割」(宮本文庫33・2・27)がある。

「25屋敷・住所」については、延宝年間金沢城下図(郷土090・598)では、小立野与力町に「中村庄兵衛」の記載が確認できる。寛政元年(一七八九)に養昌が写した「加陽武士町細見図」(38・53・2)でも同所に「中村弥次郎」と記している。「一代記」によれば、明和5年(一七六八)養昌が与力に召出されたとき、拝領屋敷は中村三郎兵衛に貸出されていたためか養昌は近くの集福寺前の地子町に居住している。明和7年7月養父跡屋敷の拝領を願い出て許されたのが史料1で、10月には家を建て引越し、12月には本橋仙右衛門妹を娶っている。天明5年(一七八五)6月妻が病死したためか、「一代記」には同年「乙巳九月十四日、居宅定番御馬廻井上八十郎江相払イ、居屋敷之儀者相對を以、今巳年より来ル寅年迄拾ヶ年季ニ貸置、同日ヨリ本橋仙右衛門殿方江上下共四人致同居候事」と記している。与力町でありながら馬廻の藩士に家を売り、拝領地を貸し、史料2では「家料六百五拾目」で年限が来れば同額で買い返すとしている。その後天明8年12月再縁のため本橋宅を出、波着寺門前町の家に「代巻貫目、地子銀五両」で移っている。そして寛政4年9月与力町で貸していた拝領屋敷を買い返し、住んでいた井上十右衛門は波着寺門前町の家に交換のように移っている。

史料3の「屋敷図綴」は22枚綴りで敷地や建物の図である。隣地の人名から養昌の頃の図も1枚確認できるが、多くは次の敬忠や豫卿の頃の図である。その一枚の建物平面図に「小立野与力町ノ斎

藤判大夫 本宅年季貸／山田勘七ヨリ大屋瀬左衛門を経而残り年季居住いたし、斎藤判大夫江相渡候家作絵図」とあり、ほぼ同配置の別図に「山田勘七江寅九月遣置候絵図」とある。「起止録」³⁸・27
 ・2 嘉永2年(一八四九)7月13日には「八ツ時前二斎藤江案内、尋而判大夫来、銀子壹貫五百目請取、相見人小太郎兩人判印証文渡シ家引渡ス、久右衛門直に与力町等持廻三出、又勘助・喜助二かこか、世味噌蔵丁江引移」とある。また弥次郎(敬忠)名で天保2年(一八三三)提出の控図2枚があり、前年が寅年であることから、与力町の屋敷は天保2年に山田勘七に、その後大屋瀬左衛門に貸出した後、しばらく中村家が住んでいたが、嘉永2年5月敬忠が亡くなった後、7月に隣家斎藤判大夫に貸し、味噌蔵町へ引越している。味噌蔵町の頃の屋敷図については、2枚あり、その内の1枚に「金沢近江町津田随分齋隠居所之図／右買求味噌蔵丁下土橋向江少々絶長補短シテ建築、其後小立野本宅江建継等いたし引候分」としている。味噌蔵町下土橋向とは、豫卿の伯父中村又大夫の屋敷であり、弘化4年に娶った妻の実家である。つまり中村又大夫屋敷地内に津田随分齋の隠居屋敷を移築し居住し、後にまた、小立野与力町へ移築している。与力町への引越の時期については「起止録」嘉永4年(注3)7月18日「是日ヨリ家普請二取懸ル」、9月6日「是日新宅江引移リ」の記載で確認できる。豫卿は前年の嘉永3年10月百石明組与力として名跡を継ぎ、屋敷地については嘉永5年に正式に拝領(4)している。その他には明治期の建物図があり、明治5年に七尾に引越した後の図である。

「27日記・諸事留・雑録等」は、本文庫の特徴の一つで、主に養昌・豫卿・民作が様々な記録を残している。1「中村養昌一代記」は、日記の側面が強いが、毎日の記録ではなく、何か事柄あつた時々の日記である。その時に取り交わした文書等も同時に写して

いるところに特徴がある。2「起止録」は、豫卿の日記で、毎日朝起きてから寝(止ま)るまでのことを一日数行で記したものである。詳細な事は記されていないが、毎日の行動や人の交流がよくわかる史料である。そのため、この2点の史料は本解説でも多く引用している。3は仙台から江戸への、4は能登三崎への紀行文である。5・9は民作の様々な記録である。

「28書状・書簡」 差出人でまとめたが、他の分類に関連する書状・書簡はその分類で挙げている。史料1・13は本多安房守政行から養昌宛てた書状で、年号は「二代記」から推定している。政行と養昌の関係は明確ではない。11・13の「帯刀領」の帯刀とは安永9年(一七八〇)旗本本多弥五郎の養子として江戸に遣わした本多政行の七男のことである。24・48は明治以降の親族からの書簡である。49以降の主な差出人については「芸芸」等の交友関係にも関連するので文末の「主要人物略紹介」にまとめた。

「29事件・その他」 史料1は、喜大夫の伴庄兵衛(庄次郎)が中村家の小者を殺害した一件で、庄次郎は後に出奔している。2・9は、豫卿が外出差し止めの処分を受けた一件である。弘化3年(一八四六)正月24日、後に藩主となる前田慶寧による経武館の稽古御覧があり、それを豫卿は欠席した。そのことにより、3月27日に外出指止が申渡され、翌弘化4年5月1日によりやく赦されている。

III 学校等

本文庫の特色の一つで、時期的に大きく三分した。「31明倫堂・孝友堂」は主に豫卿が藩政期に学んだ頃、「32明倫堂く西校」は明治初年豫卿が金沢で教師として、「33鹿島郡小学校」は明治5年能登所口に引越後の豫卿・民作が教師の時である。

「31明倫堂・孝友堂」 明倫堂は加賀藩の藩校、孝友堂は漢学者で

明倫堂助教を勤めた西坂衷の私塾である。豫卿は天保2年(一八三二)10月20日に明倫堂への入校が認められる。史料3「明倫堂座順」は豫卿が明倫堂に在校時の座順の記録であるが、文政7年(一八二四)天保9年の学頭も記されている。5は天保10年の学政修補に伴う史料で、立時生徒願之通被仰付候人々、今般御仕法に付、何茂御免被成候条可申渡旨、今日奥村丹後守殿被仰聞候条、可被得其意候以上 / 二月十七日 / 猶以、御書物拝借有之候ハ、明後十九日四時ヨリ九時迄之内返納可有之候、以上 / (端裏書 中村文太郎殿 古屋甚兵衛)とあり、奥村丹後守栄実の決定を、学校方御用の古屋甚兵衛が申渡した史料で、平士並以下の与力嫡子であった豫卿が明倫堂に通えなくなったのである。

その前年豫卿は「起止録」に「天保九年三月下旬、跡地義三郎ト共ニ西坂ニ入門ス」と記し孝友堂に入塾している。史料7・9・12は孝友堂での記録で、12では豫卿は指導する立場で、子である民之助(17歳)、外与三郎(7歳)の名前もみられる。明治期以降は辞令関係が主体であるが、「33鹿島郡小学校」の史料22「校費受払簿」や25「起稿冊」は学校費用や予算関係で明治末・大正初の小学校の実態が窺える史料である。なお、同じく民作が記した「掌略記」(38・27・6)にも同時期の学校関係の記録が含まれている。

IV 学芸

史料が多く、本文庫の特徴である「漢学・漢詩・書画」を学問等から分けて項を立てた。「44漢学」には漢詩写や漢詩撰集や歴史事項を漢文体で表現したものを含めた。「45漢詩」・「46書画」は中村家および豫卿と学問的交友関係にある人々の自作である漢詩等を作者別に集め、「46書画」の書については多くが漢詩であるが、軸装や扁額の他は、書道紙等に書かれたものを含めた。

「44漢学」史料6「信州にて狼の害につき漢詩」については、「続漸得雜記」(加越能文庫16・05・6)にも漢詩により狼害を止めた同内容の記載がある。なお、「52藩政」に含めた近藤若五郎等の辞世句も漢文体であり、漢学の意で写された可能性もある。「45漢詩」の史料9「雑詩別集」の編者は記されていないが、同僚・友人・近人・古人ごとに彼らの漢詩が記されている。同僚は明倫堂の同僚であろうか、同僚・友人ともに名前が見られるのは大島善と豊島毅であることから編者は名前の無い豫卿であり、豫卿の交友関係が判る史料でもある。「46書画」の史料1「書画酬和」は卷子に装丁されているが、弘化3年(一八四六)正月3日同日の「起止録」には大島稼亭(善)と「書画帖等尽興而」と記されている。最初の書画は、「立軒造石(印)」の記載のあと岩に草花の墨画があり、「稼亭成蘭(印)」とあり、「緑葉紫莖依石癸、青苔白露添蘭香 立軒贊(印)」とある。豫卿が石の絵を画き、大島善がその画に蘭を書き加え、豫卿が賛を入れている。「石蘭亭」との関連は明確ではないが石と蘭を題に書画を興じ、これを始めとして書と画を交わしたものである。史料20「中村豫卿書」の軸裏には「立軸先生絶筆」と記されている。

IV 藩政

「51藩主家」の史料2、寛政10年の利家二百回忌への拝礼願について、「二代記」に「例茂無之儀故、難被承届旨」と記されており、拝礼はかなわなかった。「52記録」の史料2「加陽武士町細見図」は、享保19年に有沢武貞によって描かれものを寛政元年(一七八九)に養昌が写したものである。有沢のいわゆる「武士町細見図」は金沢城下町研究の基本史料といえるものである。その原本の所在は不明であるが、写については、本史料の他に天明6年(一七八六)高橋

直正の写本（東北大学付属図書館狩野文庫）、天明8年連屋（注4）の写本（大島文庫10・0・73）、天保14年（一八四三）中村徳隣の写本（豊田白山神社文書 注5）がある。詳細は省くが、本館所蔵の天明8年写本と寛政元年写本と比較すると、本文・道筋・区画等はほぼ一致するが、写した年がわずか一年違いにもかかわらず屋敷地の人名が異なっている事例が多く確認できる。小立野与力町についても天明6年写本と寛政元年写本は人名が記載されているが、天明8年写本は一切記載されていない。写者の意図により表記が異なることが窺える。

以上、分類にもとづき補足的に説明を加えたが、中村石蘭亭文庫は明組与力の家に伝えられた史料であり、加賀藩与力家のまとまった史料群はこれまで確認されていなかった。また与力の実態、生活や人的交流など多岐にわたり迫ることができる史料が多く含まれていることも本文庫の貴重性を示している。

注

注1 同史料の翻刻版として『加賀藩士 中村養昌 一代記』（平成9年発行中村欽雄・編集代表中村夏栄 印刷研文社）がある。

注2 宇佐美 孝「加賀藩「先祖由緒并一類附帳」について」（加能地域史第7号）1982 加能地域史研究会

注3 「起止録」の嘉永4年分については、「嘉永の巻」には4年と6年が抜けている。「弘化の巻」には、弘化2年から弘化5年（嘉永元年）があり、その後、年未詳の正月から11月までの日記がある。2月4日には「八ツ時過二伊藤殿ヨリ紙面到来、追付出、御袴地一具御目録拝領」と記載されている。嘉永4年2月4日に豫卿は馬術稽古出精により袴地一具の目録を拝領している（38・14・10・11）ことから、この年未詳の日記は嘉永4年と考えられる。

なお、「起止録」について参照した先行研究および翻刻等を列挙する。

- ・江森一郎・竹松幸香「加賀藩与力、中村豫卿の「起止録」について」（『市史かなざわ』第3号 1997）
 - ・江森一郎「『起止録』解説1」（『金沢大学文化財学研究』9 2007）
 - ・竹松幸香「『起止録』安政二年（翻刻・校注）」（『金沢大学文化財学研究』9 2007）
 - ・江森一郎「『起止録』解説（嘉永二年）」（『金沢大学教育学部紀要（教育学編）』57号 2008）
 - ・江森一郎・竹松幸香「起止録嘉永二年（一八四九）一月～六月（翻刻）」（『起止録嘉永二年（一八四九）七月～十二月（翻刻）」（『金沢大学教育学部紀要（教育学編）』57号 2008）
 - ・江森一郎「『起止録』解説2 文久2年」（『金沢大学文化財学研究』10 2010）
 - ・竹松幸香「『起止録』文久二年（翻刻・校注）」（『金沢大学文化財学研究』10 2010）
- 注4 連屋については、「先祖由緒并一類附帳 長六郎（加越能文庫）」に長六郎の曾祖父として「山田六郎五郎連屋」が記載されている。山田家は代々長家の臣で明治2年家苗を長に改めた。大島文庫本の巻末に貼られた経緯から、この山田連屋が写したと考えられる。
- 注5 豊田白山神社には、養昌の弟が嗣いだ中村弥五左衛門家の史料が所蔵されている。それは明治期以降中村家が豊田白山神社の神職を務めていることによる。「武士町細見図」を写した中村徳隣は養昌の子丹大夫で弥五左衛門家への養子である。丹大夫の娘は豫卿の妻となるなど、本文庫の中村家との姻戚関係が強い。そのため豊田白山神社文書には、本文庫関連史料や、姻戚関係にある大島家の由緒帳等も含まれている。なお、豊田白山神社文書の複写資料については本館で閲覧することができる。

主要人物略紹介 中村豫卿（文政6年生 明治26年没71歳）の交友関係者

青山延寿 漢学者 水戸藩儒「読史雜詠」の著者 明治39年没87歳

井口 濟 嘉一郎 号犀川・孜孜堂 儒者 明治17年没73歳 嫡男無加之

梅村近義 環 十郎左衛門 寺西家陪臣六十石 文政12年生 孝友堂学友

大島 善 善太郎・善之助 号伯遷・栢軒・七原・稼亭 希顔堂 百九十石

明倫堂助教 文政9年生 明治13年没54歳 豫卿の友人・同僚、妻

は豫卿の妻と姉妹 大島維直の孫、父は桃年、三代続けて藩儒家

嫡男多計比古

河波有道 号樓園 本多家陪臣 明治元年明倫堂助教 文政5年生、明治23年没69才 豫卿の同僚

岸井孝次 九八郎 清太 号静斎 画家 給禄四十俵 文政9年生

明治26年没68歳 孝友堂学友

佐藤元知 儀左衛門 今枝家与力二百石 兵学は有沢氏の高弟 天保10年没72歳

甚十郎 御歩横目市郎右衛門嫡子 孝友堂学友

佐藤列松 精一・精二郎 号青溪 百十石 文政4年生、明治23年没 明治期

杉村与之 以降七尾住 書家 豫卿の友人

関 正辞 号高里 高岡神主三河守二男 関仙次郎 孝友堂学友

長 連孝 三蔵 号淡所 長家陪臣百三十石 豫卿の弟子

土田守直 源四郎 明組与力百石 豫卿の公事場・刑獄寮での同僚

豊島 毅 号洞斎 明倫堂助教文学教師 明治39年没83歳 豫卿の友人・同僚

永山政時 平太・平八・平 号亥軒・椿園 明治12年没65歳 豫卿の学兄

西坂成一 猪之助 号白溪 百五十石 明倫堂助教 明治20年没57歳 藩儒

西坂錫の子 孝友堂学友

丹羽履信 弟次郎・次郎兵衛 号椎溪 弘化3年明倫堂訓導 孝友堂学兄

林清次郎 組外番頭林源多郎定吉七百石の嫡子、万延・文久頃没、孝友堂学友

東方 履 元吉・真平 号芝山 文化10年生、明治12年没67歳 大聖寺藩士百

藤田維正 二十石 儒者 画家 誠一郎 号容斎 明治元年明倫堂助教加入 文政8年生、明治25年没68歳 儒者 画家 豫卿の同僚

山田長宣 号淇洲・袖陽・楠涯・橡石 鹿島郡区長・七尾市正 明治27年没70歳 豫卿の弟子

東平 号新川・太刀山人 明治2年明倫堂助教 豫卿同僚

※生没年年令については史料等により異なる場合もあるため、ここでは目安として提示したものである。

二本文庫・中村石蘭亭文庫目録

平成二十四年三月

編集・発行

金沢市立玉川図書館
近世史料館

〒920-0863 金沢市玉川町二番二〇号

電話〇七六(二二二)四七五〇

FAX〇七六(二二二)六九三八

印刷所

田中昭文堂印刷株式会社
電話〇七六(二六九)七七八八
FAX〇七六(二六九)七三一

表紙	レザック66	175kg (四六判)	見返し	再生上質紙	110kg (四六判)
本文	書籍用紙	70kg (四六判)	写真	再生コート	135kg (四六判)